

専門分野
【 基礎看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	看護学概論	対象学年・時期	1年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師 ★	講義時間	29
		テスト時間	1 (45)
学習目標	1. 看護の本質を理解し、看護の概念を理解する 2. 看護の対象としての人間を身体的・精神的・社会的統一体として理解する 3. 人間にとっての健康の意義について理解する 4. 保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解し看護活動のあり方を理解する 5. 看護の歴史を通して、現在の看護の位置づけ及び諸問題を理解する		
回	主題	内容	授業方法
1回 2回	看護とは	1) 看護の本質 ①看護の変遷 ②看護の定義 2) 看護の役割と機能 ①看護ケア ②看護実践と質の保証 ③看護理論家の看護概念	＊アクティブラーニング 講義 グループワーク
3回	2. 看護の対象理解	1) 人間の心とからだ 人間の欲求(ニード) 2) 生涯発達し続ける存在としての人間	講義
4回 5回	3. 国民の健康状態と生活	1) 健康とは 2) 国民の健康状態 3) 国民のライフサイクル	講義
6回 7回	4. 看護の提供者	1) 職業としての看護 2) 看護職の資格・養成制度・就業状況 3) 継続教育とキャリア開発 4) 看護職の養成制度の課題	講義
8回 9回	5. 看護における倫理	1) 職業倫理と看護倫理 倫理原則、患者の権利とインフォームド・コンセント 2) 患者の意思決定支援と守秘義務 3) 医療における倫理的問題 4) 専門職の倫理規定 ①倫理綱領 5) 倫理的ジレンマ	講義 グループワーク
10回 11回 12回	6. 看護提供のしくみ	1) サービスとしての看護 2) 看護提供の場とチーム医療 3) 継続看護 4) 看護をめぐる制度と施策 5) 看護サービス管理 6) 医療安全と医療の質保証	講義 グループワーク
13回 14回	7. 広がる看護活動領域	1) 国際化と看護 2) 災害時の看護	講義
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験・課題評価		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 看護学概論 基礎看護学① (医学書院) 新版 看護職の基本的責務 (日本看護協会) フローレンス・ナイチンゲール：看護覚え書き (現代社) ヴァージニア・ヘンダーソン：看護の基本となるもの (日本看護協会出版会)		
参考文献	看護の本質 (現代社)		

【看護学概論】

自己学習時間	15 時間	事前学習・事後学習	課題レポートに取り組む
--------	-------	-----------	-------------

授業科目	看護倫理		対象学年・時期	3年生 前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護師としての職業倫理を理解できる 2. より良い看護の実現に向けた倫理的問題の分析および倫理的意思決定の方法を理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護倫理の基礎知識	1) 倫理・道徳・法 2) 看護倫理とは		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 看護師の倫理規定	1) 看護師の責務 2) 看護実践に関わる倫理の原則		講義 グループワーク
3回	3. 職業倫理と看護倫理	1) 職業倫理とは 2) 看護を取り巻く倫理的課題とその背景や歴史の理解		講義 グループワーク
4回	4. 倫理的ジレンマ	1) 道徳的ジレンマと倫理課題 ① 日常のケアにおける倫理的課題 ② 先端技術医療における倫理的課題		講義 グループワーク
5回	5. 倫理的アプローチ	1) 対象を中心とした看護 (1) 患者の権利擁護 (2) 患者のプライバシーの保護 2) 看護師としての自覚と責任ある行動 (1) 生命・尊厳権利の尊重と擁護 (2) 守秘義務の厳守と個人情報保護 (3) 事故の責任能力の的確な判断 (4) 看護師としての健康と品行の維持 (5) 環境問題における社会と責任の共有 (6) 患者・社会のニーズの把握 (7) 受容・共感的態度 (8) 説明と同意 (9) 信頼関係を築く行動		講義 グループワーク
6回	6. 意思決定プロセス	1) 倫理的アプローチ法 (1) Jonsenらの事例検討シートを用いた方法 (2) トンプソン&トンプソンの意思決定のための10のステップモデル (3) サラ・フライの看護実践における倫理的分析と意思決定モデル		講義 グループワーク
7回		1) 事例検討 (1) 患者の意思決定 (2) 倫理的ジレンマ		講義 グループワーク
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護講座 別巻 看護倫理 医学書院			
参考文献	看護職者のための倫理綱領 日本看護協会			

【看護倫理】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	倫理課題についてのレポートに取り組む
--------	-------	---------	--------------------

授業科目	共通基本技術		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	11
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護技術の基本原則	1) 看護技術の特徴 2) 看護技術の範囲 3) 看護技術を適切に実践するための要素		*アクティブラーニング 講義
2回 3回	2. 人間関係の技術	1) コミュニケーションの意義と目的 2) コミュニケーションの構成要素と成立過程 3) 関係構築のためのコミュニケーションの基本 4) 効果的なコミュニケーションの実際 5) コミュニケーション障害への対応		講義 演習
4回	3. 記録・報告	1) 看護記録とは 2) 記載・管理における留意点 3) 看護記録の構成		講義
5回	4. 安全確保の技術	1) 誤薬防止 2) チューブ類の予定外抜去防止 3) 患者誤認防止 4) 転倒・転落防止 5) 薬剤・放射線曝露の防止		講義
6回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (感染予防)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	12
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 感染予防の基礎知識	1) 感染と感染症 2) 感染成立の条 3) 院内感染の防止 4) 標準予防策の基礎知識 (1) 手指衛生 (2) 個人防護用具 5) 感染経路別予防策の基礎知識 (1) 接触予防策 (2) 飛沫予防策 (3) 空気予防策	講義	
2回	2. 標準予防策の実際	1) 衛生的手洗いの実際 (1) 流水による衛生的手洗い (2) 擦式消毒用アルコール製剤による衛生的手洗い	演習	
3回		2) 個人防護用具の取り扱いの実際 (1) 手袋 (2) サージカルマスク (3) フェイスシールド (4) エプロン 3) 感染性廃棄物の取り扱いの実際	演習	
4回	3. 洗浄・消毒・滅菌 4. 無菌操作	1) 洗浄・消毒・滅菌の基礎知識 2) 無菌操作の基礎知識	講義	
5回	5. 無菌操作の実際	1) 滅菌物の取り扱いの実際 (1) 滅菌鑷子 (2) 滅菌手袋	演習	
6回	6. 針刺し防止策	1) 針刺し防止の基礎知識	講義	
	7. 医療施設における感染管理	1) 感染管理のための組織 2) 感染症発生時の対応		
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学②(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
参考文献				

授業科目	共通基本技術 (学習支援)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 看護活動における基本的技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回 3回	1. 看護における学習支援	1) 健康に生きることを支える学習支援 2) 健康状態の変化に伴う学習支援		講義 演習
評価方法	筆記試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院)			
参考文献				

【共通基本技術】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	---

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術 I (環境)		対象学年・時期	1年次 前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45)
学習目標	1. 環境調整の意義を理解し、快適な療養環境を整えるための技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 療養生活の環境	1)人間の健康と環境 (1)環境の意義 ①環境とは②人間と環境③看護学における環境 ④快適な環境の要素		講義
2回	1. 療養生活の環境	2)生活環境の調整 (1)人と環境 (2)療養生活と環境 (3)生活環境の調整(温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー) (4)測定器具の使用方法		講義・演習
3回	2. 病室環境	1)病室の構成 (1)病室の環境と病床内環境(共有・居住) 2)病院で働く人々 3)療養環境のアセスメント (1)援助の必要性 (2)病室・病床の選択		講義
4回	2. 病室環境	4)療養環境の実際 (1)病棟見学 ①病棟の構造 ②病室の構成、 ③病室の環境測定(温度、湿度、照度、騒音、換気、採光、臭気、色彩、プライバシー)		病棟見学 (時期を考え変更は可)
5回	3. 療養環境の整備	1)ベッドメイキング (1)ベッドメイキングとは (2)リネン類の取り扱い		講義
6回	3. 療養環境の整備	2)ベッド周囲の環境整備 (1)病床を整える援助技術 ・環境整備の基本		演習
7回	3. 療養環境の整備	3)ベッドメイキング (1)リネンの取り扱いの実際 (2)ベッドメイキングの実際		演習
8回	3. 療養環境の整備	3)ベッドメイキング (2)ベッドメイキングの実際		演習
9回		(3)リネン(シーツ)交換の実際		
10回	3. 療養環境の整備	4)臥床患者のリネン交換 (1)臥床患者のリネン交換		講義
11回	3. 療養環境の整備	4)臥床患者のリネン交換 (2)臥床患者のリネン交換の実際		演習

12回	3. 療養環境の整備	1) ベッド周囲の環境整備 (1) 病床を整える援助技術 (環境調整の意識)	演習
13回		① 患者の状態に応じた環境調整 ・療養環境のアセスメントと実際 2) 患者の状態に合わせた環境とは	講義・演習
14回	3. 療養環境の整備	ベッドメイキング 技術チェック	技術チェック
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③ (医学書院) 基礎・臨床看護技術 (医学書院)		
参考文献			
自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師 ★		時間数	30
			担当時間数	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.栄養状態を整える意義を理解し、対象の状態に適した食事援助の技術を習得する 2.排泄を整える意義を理解し、対象の状態に適した排泄の援助技術を習得する			
回数	主題	主な学習内容	講義形態	
1回	1.人間の健康と食事	1) 食事の意義 (1)食事の身体的意義 (2)食事の心理的意義 (3)食事の社会的意義 2) 健康な食生活	*アクティブラーニング講義	
2回		3) 栄養状態のアセスメント 4) 摂食能力及び食欲、食に関する認識のアセスメント	講義	
3回	2. 医療施設で提供される食事 3. 食事の援助	1) 食事の種類と形態 2) 食事の提供方法	講義	
		1) 経口的栄養摂取の援助 (1)食事援助時の環境調整 (2)食事援助により生じる問題とその問題を回避する方法 (3)視覚障害、高次機能障害、嚥下障害時の食事援助	講義	
4回		2) 非経口的栄養摂取の援助 (1)経管栄養法 (2)中心静脈栄養法	講義	
5回	4. 食事の介助	食事の介助の基本	演習	
6回	5. 経鼻胃管栄養法	経鼻胃管チューブ挿入 経管栄養法による栄養剤の注入	演習	
7回	6.人間の健康と排泄	1) 排泄の意義 (1)排泄の身体的意義 (2)排泄の心理的意義 (3)排泄の社会的意義 2) 排泄行動のアセスメント	講義	
8回	7.対象の状態に応じた排泄の援助	1) 自然な排泄を促す援助 (1)トイレにおける排泄の援助 (2)ポータブルトイレにおける排泄援助 (3)床上排泄の援助(尿器・便器)	講義	
9回		2) 対象の状態に応じた援助 (1)オムツによる排泄の援助 (2)摘便	講義	
10回		尿器・便器を用いた排泄の介助、オムツ交換	演習	

11 回		3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) 一時的導尿 (2) 持続的導尿	講義
12 回		一時的導尿	演習
13 回		3) 排泄を促す医療処置を伴う援助 (1) グリセリン浣腸 4) 排泄物の観察	講義
14 回		グリセリン浣腸	演習
15 回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験、演習課題		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

【日常生活の援助技術Ⅱ(食事・排泄)】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅲ (姿勢と体位、睡眠・休息)		対象学年・時期	1年次・前期	
			単位数	1	
			時間数	30	
講師名	看護師 ★		講義時間	29	
			テスト時間	1(45分)	
学習目標	1. 様々な移動方法を理解し、対象の状態・状況に応じた安全・安楽な移動技術を習得する 2. 休息の種類と意義を理解し、適切な睡眠・休息を促すための援助技術を習得する				
回	主 題	学習内容及び方法	講義形態及び教室		
1回 2回	1. 姿勢・活動	1) 基本的活動の基礎知識：活動とは 2) 良い姿勢とボディメカニクス 3) 活動・運動の能力のアセスメント	*アクティブラーニング 講義		
3回 4回		1) 体位 2) 移動(体位変換・歩行・移乗・移送)	講義		
5回 6回		(1) 体位変換 (2) 車椅子への移乗・移送	演習 (実習室)		
7回 8回		(3) 歩行・移乗・移送について ①歩行介助(歩行器、松葉杖、T字杖) ②ストレッチャーへの移乗・移送	演習 (実習室)		
9回		※車椅子への移乗動作技術	技術チェック (実習室)		
10回		1) 運動機能維持・拡大に向けた援助 (1) 自動・他動運動 (2) ROM	講義・演習		
11回		2. 睡眠・休息の援助	1) 休息の種類と意義 2) 睡眠・休息状態のアセスメント 3) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 4) 睡眠障害とその援助方法	講義	
12回 13回		3. 安楽確保の技術	1) 体位保持(ポジショニング) (1) 安楽な体位の調整 2) 巻法 (1) 温巻法 (2) 冷巻法	講義 演習 (実習室)	
14回			1) 身体ケアを通じてもたらされる安楽 (1) リラクゼーション法 (2) 熱布バックケア 2) 安楽を促進するためのケア	講義	
15回		まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験				
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)				
参考文献					

【日常生活の援助技術Ⅲ(姿勢と体位、睡眠・休息)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.療養生活における衣服の機能を理解し、対象に適した衣服を整える援助技術を習得する 2.身体の清潔を保つ意義を理解し、対象の状態に適した清潔維持の技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 人間の健康と清潔 2. 清潔援助とは	1) 健康な人の清潔の意義 2) 健康を害した人の清潔援助の必要性 3) 清潔援助の看護師の役割		*アクティブラーニング 講義
2回	3. 清潔援助の基本 4. 全身的な清潔①	1) 身体各部の清潔の援助方法 2) 全身的な皮膚の清潔(入浴・シャワー浴)		講義
3回	5. 療養生活における衣服の機能	1) 衣服を身につけることの意義 2) 病衣の種類と選び方・状態に合わせた寝衣交換		講義
4回	6. 全身的な清潔②	1) 状態に応じた清潔援助技術(清拭)		講義
5回	7. 対象の状態に応じた寝衣交換	1) 臥床患者の寝衣交換(前開きパジャマ) 2) 全身清拭・寝衣交換の実際		演習 デモンストレーション
6回	8. 清潔援助①	1) 臥床患者の清拭		演習
7回	8. 清潔援助②	1) 臥床患者の全身清拭		演習
8回	9. 部分的な清潔①	1) 手浴・足浴の意義と効果 2) 状態に応じた手浴・足浴の援助技術 3) 陰部洗浄の意義と効果 4) 状態に応じた陰部洗浄		講義
9回	10. 部分的な清潔② 11. 整容とは	1) 口腔ケアの意義と効果 2) 状態に応じた口腔ケア 3) 整容の意義と効果 4) 整容の援助技術(爪切り・耳・髭剃り)		講義
10回	12. 部分的な清潔③	1) 洗髪の意義と効果 2) 状態に応じた洗髪援助技術		講義
11回 12回	13. 部分的な清潔援助	1) 臥床患者の部分的な清潔援助 (洗髪・手浴・足浴・陰部洗浄・口腔ケア《歯磨き》)		演習
13回	14. 清潔援助③	1) 患者の状況に応じた臥床患者の清拭と寝衣交換		演習
14回	15. 清潔援助④	1) 「清拭・寝衣交換」技術チェック		技術チェック
15回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験、演習課題			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院)			
参考文献				

【日常生活の援助技術Ⅳ(清潔・衣生活)】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	----------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	ヘルスアセスメント		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1単位
講師名	看護師 ★		時間数	30
			担当時間数	19
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 看護におけるヘルスアセスメント	1)ヘルスアセスメントの考え方 (1)アセスメントとは (2)ヘルスアセスメント 2)アセスメントプロセス (1)環境調整 (2)対象者の準備 (3)看護師の準備とアセスメントの進め方	*アクティブラーニング 講義	
2回 3回	2. 問診・インタビュー、ヘルスヒストリー(健康歴)	1)問診の技術 2)ヘルスヒストリーの実際 (1)主訴 (2)現病歴 (3)既往歴 (4)生活背景 (5)生活状況 (6)生活行動	講義 演習	
4回 5回 6回	3. フィジカルアセスメント	1)フィジカルアセスメントの基本技術 (1)視診 (2)触診 (3)聴診 (4)打診 2)身体各部の測定 (1)バイタルサインの測定 ①意識 ②呼吸 ③脈拍 ④血圧 ⑤体温 (2)身長・体重・胸囲・皮下脂肪厚測定	講義 演習	
7回	4. 系統別アセスメント	1)系統的アセスメントと頭尾法 (1)頭尾法によるヘルスアセスメントの実際	講義 演習	
8回 9回	5. 心理・社会的側面からのアセスメント	1)心理・社会的側面の系統的アセスメント (1)健康知覚-健康管理:健康管理のために行う活動 (2)自己知覚-自己概念:自己に対する認識 (3)役割-関係:家族や社会における役割 (4)コーピング-ストレス耐性:ストレスに対する対処行動 (5)価値-信念:人生や生活を送る上での価値観 *痛みを含む	講義 演習	

10回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門Ⅰ基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版
参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント(メディカ出版) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第2版(南江堂)

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	ヘルスアセスメント		対象学年・時期	1年次・前期
			単位数	1単位
			時間数	30
講師名	看護師		担当時間数	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 対象の健康状態について、身体的側面および心理・社会的側面から情報収集し、総合的にアセスメントするための基本的知識と技術を習得する 2. 身体的側面については、フィジカルイグザミネーション(身体診査)の基本技法を系統的に習得する 3. 心理・社会的側面については、必要な理論やツールを用いてアセスメントの視点について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 呼吸器系のフィジカルアセスメント	1)呼吸器系のフィジカルアセスメント (1)胸部の視診(2)肺音・呼吸音・副雑音の聴診 (3)胸郭の動きの触診(4)呼吸状態のアセスメント		講義 演習
2回	2. 心臓・循環器のフィジカルアセスメント	2)心臓・循環器系のフィジカルアセスメント (1)循環器系の視診(2)心音・心雑音の聴診 (3)皮膚温・動脈の触診(4)循環動態のアセスメント		講義 演習
3回	3. 腹部・消化器のフィジカルアセスメント	3)腹部・消化器系のフィジカルアセスメント (1)腹部の視診(2)腸蠕動音の聴診(3)腹部の触診 (浅い触診/深い触診)(4)消化機能のアセスメント		講義 演習
	4. 筋・骨格系のフィジカルアセスメント	4)筋・骨格系のフィジカルアセスメント (1)四肢・体幹の視診 (2)関節可動域:ROM (3)筋力評価:MMT (4)日常生活動作 (5)運動機能のアセスメント		講義 演習
4回	5. 神経系のフィジカルアセスメント	5)神経系のフィジカルアセスメント (1)意識レベル (2)認知機能 (3)運動機能の評価 (4)感覚機能の評価* <u>痛みを含む</u> (5)反射 (6)神経機能のアセスメント ◇打腱器		講義 演習
	6. 乳房・腋窩のフィジカルアセスメント	6)乳房・腋窩のフィジカルアセスメント (1)リンパ節周囲の視診 (2)リンパ節、甲状腺の触診 (3)リンパ系のアセスメント		
5回	7. 頭部・視聴覚系のフィジカルアセスメント	7)頭部、視聴覚系のフィジカルアセスメント (1)頭部、顔面(眼、鼻、耳、口腔)の視診 (2)頭部、顔面の触診 (3)視力・視野・色覚・嗅覚・聴力・嚥下機能 (4)頭部、視聴覚系のアセスメント ◇ペンライト、耳鏡、眼底鏡、音叉		講義 演習

評価方法	筆記試験、課題レポート、演習参加状況
テキスト	はじめてのフィジカルアセスメント(メヂカルフレンド社) 系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術 I 基礎看護学② (医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術 (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第 3 版
参考文献	ナーシンググラフィカ 基礎看護学②ヘルスアセスメント(メディカ出版) ヘルスアセスメント 臨床実践能力を高める 改訂第 2 版(南江堂)

【ヘルスアセスメント】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	解剖生理学を理解し講義に参加する 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	--

授業科目	看護の展開方法		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 対象のもつ健康上の問題を明らかにして、その問題を解決するための系統的で意図的な思考過程としての看護の展開方法を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回 3回	1. 看護とは	1) 看護とは 2) 看護における対象の捉え方		講義
	2. 看護過程の基盤となる考え方	1) 問題解決思考 2) クリティカルシンキング 3) 倫理的配慮と価値判断 4) リフレクション 5) 臨床判断モデル		*アクティブラーニング 講義 演習
	3. 看護モデルとアセスメント分析	1) 看護理論と情報収集 2) アセスメントの枠組み(ゴードンの機能的健康パターン)		
4回 5回 6回	4. 看護過程の構成要素	1) 情報収集と分析 (1) 情報収集の技術(観察含む) (2) 主観的データと客観的データ (3) 情報の持つ意味 (4) 情報を分析する道筋 (現状・原因・成り行きの推測・判断) (5) 全体像の把握		講義 演習
7回 8回		2) 看護問題の明確化 (1) 看護診断、共同問題 (2) 優先順位の決定		講義 演習
9回 10回		3) 看護計画 (1) 期待される成果の明確化 (2) 看護計画の立案 4) 実施の流れ、記録 5) 評価の方法		講義 演習
11回 ～ 15回	5. 看護過程の展開	事例を用いた看護過程の展開 ・目標設定・計画立案・実施 ・対象の日々の変化に合わせた計画修正 ・期待される成果や患者の反応に合わせた計画修正		演習
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学②(医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく実践看護アセスメント第3版 看護診断ハンドブック 第11版 看護過程に沿った対症看護 病態生理と看護のポイント 第4版			
参考文献	看護がみえる vol.4 看護過程の展開 (MEDIC MEDIA)			

【看護の展開方法】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	診療に伴う技術 I		対象学年・時期	1 年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45 分)
学習目標	1. 診療と検査の意義、目的を理解する 2. 診察・検査・処置をうける対象への看護技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1 回	1. 診察・検査を受ける人への看護	1) 診察の目的と種類診察の方法、看護師の役割 2) 検査・処置の種類、看護師の役割 1) 診察時の援助 2) 検査時の援助		*アクティブラーニング 講義
2 回	2. 生体検査の援助の方法	1) 心電図 2) X 線検査 3) コンピューター断層撮影 4) 磁気共鳴画像 5) 内視鏡検査 6) 超音波検査 7) 肺機能検査 8) 核医学検査		講義
3 回	3. 検体検査と援助の方法	1) 尿検査 2) 便検査 3) 喀痰検査 5) 血液検査 5) 簡易血糖検査		講義
4 回	4. 静脈血採血の目的と方法	1) 注射器・ホルダー・針・真空採血管の取り扱い 2) 簡易血糖測定の方法 3) 実施時の留意事項		講義 デモンストレーション
5 回 6 回	5. 静脈血採血・簡易血糖測定の実際	1) ホルダー採血法 2) 注射器採血法 3) 簡易血糖測定		演習
7 回	6. 穿刺時の看護	1) 胸腔穿刺 2) 腹腔穿刺 3) 腰椎穿刺 4) 骨髄穿刺		講義
8 回 9 回	7. 創傷管理	1) 創傷とは 2) 創傷の治癒課程 3) 創傷処置 4) 褥瘡予防 5) ドレッシング材の種類と特徴 6) 包帯法の目的 7) 包帯の種類 8) 援助の実際		講義 演習
10 回 11 回	8. 呼吸・循環を整える技術	1) 酸素療法の実際(中央配管方式、酸素ボンベ) 2) 排痰ケア 3) 口・鼻腔内吸引 4) 気管内吸引 5) 保温・体温管理		講義 演習
12 回 13 回	9. 救命救急処置	1) 一次救命処置 2) 気道異物除去 3) 止血法 4) 体温の保持・冷却 5) 家族への援助		講義 演習
14 回	10. ME 機器の原理と看護の役割	1) ME 機器とは 2) ME 機器の種類と原理 3) 看護の役割		講義
15 回	終講試験			
評価方法	筆記試験 技術試験 レポート課題			
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術 II 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術(医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床検査(医学書院)			
参考文献				

【診療に伴う技術 I】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	-------	---------	---

授業科目	診療に伴う技術Ⅱ		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 薬物を取り扱う際のチームにおける看護師の責任と役割を理解する 2. 薬物療法の意義・目的を理解し、薬物療法を受ける対象への看護技術を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 薬物療法時の看護師の役割	1) 薬物療法の基礎知識 (1) 薬物療法の意義・目的 (2) 薬物の種類と取り扱い方法 2) 看護師の役割 (1) 正しい与薬 (2) 薬の管理(毒薬・劇薬・麻薬・血液製剤・抗悪性腫瘍薬を含む) 3) 看護師の与薬における法的責任について		* アクティブ ラーニング 講義
2回		4) 体内動態過程(吸収・分布・代謝・排泄)と与薬方法 5) 薬剤における医療事故		講義 演習
3回	2. 与薬方法①	1) 経口与薬・口腔内与薬の援助方法 2) 与薬における看護師の役割		講義
4回	3. 与薬方法②	1) 外用薬の与薬方法 (1) 直腸内与薬(2) 吸入(3) 経皮的与薬 (4) 点眼・点鼻・点耳		講義
5回	4. 注射の基礎知識	1) 注射法の基礎知識 (1) 技術の概要(2) 注射法の基本 (3) 注射法の種類(4) 薬剤の取り扱い		講義
6回		2) 注射器の取り扱い 3) 注射薬の準備		実技演習
7回	5. 各種注射法①	1) 皮下・皮内注射 (1) 皮下注射・皮内注射の方法と留意点		講義
8回		(2) 皮下注射の実際(上腕)		実技演習
9回	6. 各種注射法②	2) 筋肉内注射 (1) 筋肉内注射の方法		講義
10回		(2) 筋肉内注射の実際(中殿筋)		実技演習
11回	7. 各種注射法③	3) 静脈内注射 (1) 点滴静脈内注射の方法と留意点 (2) 管理方法		講義

12回		(3) 点滴静脈内注射の準備 (ミキシング・プライミング・側管注・滴下調整)	実技演習
13回		(4) 輸液ポンプの取り扱い方法とその実際	講義 実技演習
14回	8. 輸血の管理	1) 輸血管理 (1) 輸血製剤の種類と取り扱い方法 (2) 輸血方法 (3) 輸血を受ける患者の看護	講義 実技演習
15回	まとめ 終講試験	まとめ 終講試験	講義 終講試験
評価方法	試験(筆記試験・技術試験)		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院)		
参考文献			

【診療に伴う技術Ⅱ】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 技術の習得に向けて積極的に技術練習を行う
--------	------	---------	---

授業科目	看護研究		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護研究の意義と必要性を学び、研究方法の基礎を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 研究の意義・必要性	1) 研究とは何か 2) 看護研究とは 3) 研究のプロセス 4) リサーチクエスト		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 文献の活用	1) 文献検討の重要性と方法 2) 文献の読み方・クリティーク 3) 文献レビューの記述と実際		講義・演習
3回	3. 研究の種類	1) 質的研究と量的研究 2) 研究デザインの種類と特徴 3) 概念枠組み		講義
4回	4. 研究の方法1	1) データとは 2) 質的データと量的データの収集方法 3) データ分析の基本 4) 研究における倫理的配慮		講義
5回	5. 研究の方法2	1) 研究テーマの設定 2) 研究内容の具体化 3) 研究計画書の必要性と書き方		講義
6回	6. 研究の方法3	1) 研究計画書の作成		演習
7回	7. 研究論文の書き方と研究成果の公表	1) 研究論文の構成 2) 抄録とは 3) 研究結果の発表 4) 論文作成時の留意点		講義
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験および提出物			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院)			
参考文献				

【看護研究】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	研究課題に取り組めるよう講義内容を学習する
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	看護研究演習		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 研究クリティークの方法を理解し、適切な文献の活用ができる 2. 自己の看護実践の意味づけができる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 研究成果の活用	1) ケーススタディとは 2) ケーススタディの意義・目的 3) ケーススタディの方法 4) ケーススタディの書き方 5) 研究テーマの設定 6) ケーススタディにおける文献検討		*アクティブ ラーニング 講義
2回	2. 研究のクリティーク	1) 文献の読み方 2) ケーススタディのクリティーク		講義・演習
3回	3. 看護実践の意味づけ1	1) ケーススタディ計画書とは 2) ケーススタディ計画書の作成		講義・演習
4回 5回	4. 看護実践の意味づけ2	1) ケーススタディ作成		講義・演習
6回	5. 研究成果の伝達および講評	1) 研究発表の方法と意義 2) 抄録の作成 3) 講評とは		講義
7回 8回	6. ケーススタディ発表会	1) ケーススタディ発表 2) 相互評価・講評		発表会
評価方法	演習課題および取り組み状況により評価する			
テキスト	系統看護学講座 別巻 看護研究(医学書院) 松本孚他:新版看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方(照林社)			
参考文献				

【看護研究演習】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	研究課題に取り組めるよう講義内容を学習する
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	基礎看護学実習 I (日常生活援助)	対象学年・時期	1 年次・後期
		単位数	1
		時間数	45
実習目的	療養の場における対象を生活者としてとらえ、対象に合わせた日常生活援助が実施できる		
	実習目標及び内容		
	<p>1)療養の場における対象を生活者としてとらえ、対象に合わせた日常生活援助が実施できる</p> <p>(1)対象の生活環境が理解できる</p> <p>①入院している対象の療養生活の環境について知ることができる</p> <p>②対象の療養環境調整の必要性について考えることができる</p> <p>(2)看護の対象を理解することができる</p> <p>①対象に合わせた言葉づかい・身だしなみ・態度で他者と関わることができる</p> <p>②対象の訴えをありのまま聴くことができる</p> <p>③意図的に非言語的メッセージを観察することができ、その意味を考えることができる</p> <p>④対象の反応を確認し、話しやすい環境を配慮しながら、意図的にコミュニケーションを図ることができる</p> <p>⑤対象の身体的・心理的・社会的側面を把握するための情報収集ができる</p> <p>(3)対象に合わせた日常生活援助が実施できる</p> <p>①対象の状況に応じた援助の必要性を述べることができる</p> <p>②対象に必要な援助を計画することができる</p> <p>③援助前の対象の状態を確認し、立案した計画が実施可能か判断することができる</p> <p>④立案した計画に基づき、対象の反応を確かめながら援助を実施することができる</p> <p>⑤安全を守り、安楽・自立に配慮した援助が実施できる</p> <p>⑥援助の根拠、計画、実施の過程を振り返ることができる</p> <p>⑦援助の振り返りをもとに計画の追加・修正ができる</p> <p>⑧状況に応じて報告・連絡・相談をすることができる</p> <p>2)保健医療チームの一員として、看護者に求められる基本的姿勢を身に付ける</p> <p>(1)感染予防策が実施できる</p> <p>(2)日常生活援助の実施を通しての看護に対する自己の考え、今後の課題を表現できる</p> <p>(3)時間を管理し、責任を持った行動がとれる</p> <p>(4)実習目標の到達に向けて、主体的に学習に取り組むことができる</p> <p>(5)チームの一員として適切な人間関係を持つことができる</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	基礎看護学実習Ⅱ(看護の展開方法の実際)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	対象に応じた看護の実践に看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を身につける。対象を総合的にとらえ、科学的根拠を用いて健康問題を明らかにし、看護を計画、実施、評価するプロセスについて実践をとおして学ぶ。これにより、対象に合わせた看護を実践するための基礎を習得する。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 受け持ち患者への看護実践に看護過程展開の技術を適用し、問題解決技法の基礎を理解する。</p> <p>(1) 情報源を活用し情報収集ができる</p> <p>(2) コミュニケーションスキルを活用し、看護に必要な情報を収集できる</p> <p>(3) アセスメントツールを活用し情報の整理ができる</p> <p>(4) 知識・理論に基づき、情報の意味の解釈ができる</p> <p>(5) 対象の状態を健康時・基準値と比較し情報の分析ができる</p> <p>(6) 対象の健康問題の原因・誘因が明確にできる</p> <p>(7) 情報の関連付け(統合)ができる</p> <p>(8) 対象の望ましい状態を考え、健康問題の抽出ができる</p> <p>(9) 対象の状態にあわせて優先順位が決定できる</p> <p>(10) 対象の健康問題を解決するための具体的な目標が設定できる</p> <p>(11) 対象の個別性や強みをいかした具体策の立案ができる</p> <p>(12) 対象の安全・安楽を考慮した方法で実施できる</p> <p>(13) 対象の反応をとらえ、コミュニケーションを図りながら実施できる</p> <p>(14) 実施した内容を正確に、要点をふまえて報告できる</p> <p>(15) 実施した看護援助の評価ができる</p> <p>(16) 立案した看護計画の評価ができる</p> <p>2) 保健医療チームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける</p> <p>(1) 対象を尊重し、誠実な態度で関わることができる</p> <p>(2) 信頼を得るために、個人としての品行を常に維持できる</p> <p>(3) チームの一員として自分の役割を自覚し、責任をもった行動がとれる</p> <p>(4) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある</p>		
評価方法	評価表による評価		

【地域・在宅看護論】

授業科目	地域・在宅看護論Ⅰ (暮らしを支える看護)		対象学年・時期	1 学年・後期
			単位数	2
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 個人・家族を支える環境としての地域を理解する 2. 個人・および家族の暮らしを理解する 3. 自らの健康を維持できるよう継続的に暮らしを支える看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1 回 2 回	1. 地域で生活 する人々の 理解	1)個人の生活構造と地域特性 (1)暮らすということ (2)地域の全体像の系統的把握 (3)地位の「強み」「弱み」 2)健康支援活動 (1)ヘルスプロモーション、プライマリヘルスケア、 ソーシャル・キャピタル (2)健康課題を解決するための支援技術 健康教育、患者教育、生活の場へのアウトリーチ グループダイナミックス		*アクティブラーニング 講義
3 回 4 回 5 回	2. 地域の生活環 境が健康に与え る影響	1)文化的環境:歴史や文化 2)社会的環境 :交通網や近隣都市との関係、産業 構造や人口構成 3)自然環境:地形や気候		講義 フィールドワーク コミュニティ・ アズ・パートナー モデル
6 回 7 回	3. 地域・在宅 看護論の対象	1)個人・家族、集団、組織、地域 2)健康状態(健康の良い状態～終末期まで) 3)発達段階(胎児期～老年期まで)		講義
	4. 家族の役割	1)家族の捉え方 (1)家族理解のための基礎理論 家族発達理論・家族システム理論・家族ストレス 対処理論 2)家族の機能と役割 (1)家族の変遷と現状		講義 演習
8 回 9 回	5. 健康と暮らしを 支える看護	1)地域包括ケアシステムにおける看護の役割 (1)地域包括ケアシステムの背景 (2)地域包括ケアシステムの機能 (3)地域包括ケアシステムにおける看護の役割 2)自助、互助、共助、公助の意義と役割 (1)自助、互助、共助、公助の意義 (2)自助、互助、共助、公助の役割と実際 3)家族を支える看護 (1)家族の健康 (2)家族を支援する目的 4)多職種連携、協働の意義と方法		講義 フィールドワーク

10回 11回	6. 看護が提供される多様な場の理解	1) 看護が提供される多様な場とその根拠 (1) 地域における暮らしを整える看護 (2) 地域・在宅におけるライフサイクルに応じた看護 ①行政における地域看護活動 ②学校保健分野における看護活動 ③働く場における産業看護活動 (3) 介護予防分野における看護活動 (4) 地域での暮らしにおける災害対策、 (5) 地域での暮らしにおける感染症対策(新興感染症)	講義 フィールドワーク
12回 13回	7. 地域・在宅看護論に関連する法制度と施策	1) 医療保険、介護保険制度と施策 2) 訪問看護における法や施策 3) 権利保障に関する法や施策 4) 各保険、障害者等に関する法と施策	講義 演習
14回	8. 地域で暮らし続けることを支援するマネジメント	1) 自己決定支援(ACP含む) 2) ケアマネジメント (1) ケアマネジメントの定義と目的 (2) ケアマネジメントの展開 3) 保健行動と行動変容 4) インフォーマルネットワークの維持	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験、課題提出		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論① 医学書院		
参考文献	河野あけみ他: 在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他: 地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向		

【地域・在宅看護論 I】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護論Ⅱ (在宅療養を支える看護)		対象学年・時期	2 学年前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 地域における在宅看護を理解する 2. 在宅看護における看護の機能と役割を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 地域における在宅看護	1)在宅看護の位置づけ (1)在宅ケアと在宅看護 2)在宅看護が提供される場 (1)外来看護 (2)訪問看護 (3)施設での看護 (4)通所サービスでの看護	*アクティブラーニング 講義 DVD	
2回	2. 社会の変化と在宅看護	1)在宅看護を必要とする社会的背景 (1)在宅看護の歴史的変遷 2)社会の要請から求められる看護 (1)在宅看護と今後の動向	講義	
3回	3. 在宅看護の対象と目的	1)在宅看護の対象 (1)法制度からみた対象 (2)ライフサイクルからみた対象 (3)疾患からみた対象 (4)障害レベルからみた対象 (5)状態別、状況別からみた対象 2)在宅看護の定義と目的	講義 グループワーク	
	4. 在宅看護の特性	1)在宅看護の目的 2)在宅看護の対象 3)在宅看護の方法	講義	
4回	5. 在宅看護の機能と役割	1)療養者と家族の健康と生活上のリスクを回避した療養生活上の安定・安全 2)対象者の健康問題に対する主体的な取り組み 3)災害発生時の在宅療養者と家族の健康危機 4)家族のセルフケア機能を高めたエンパワメント 5)支え合う地域社会の構築	講義 グループワーク	
5回	6. 在宅における自己決定と生活の自立支援	1)療養者の権利擁護 (1)権利行使のための自己決定支援 (2)法的制度活用による権利擁護 ①後見人制度 ②虐待防止法 ③個人情報保護 (3)サービス提供者の権利の保護	講義 グループワーク	

6回	7. 家族介護者の理解と健康支援	1)在宅療養者の想いと家族介護者の思い 2)介護している家族のアセスメント (1)家族アセスメントモデル 3)家族関係の調整 4)介護方法の指導 5)介護している家族の健康支援	講義 グループワーク
7回	8. 在宅看護にかかわる法令・制度の活用	1)在宅療養における多職種との連携とケアマネジメントの実際 (1)多職種との連携 (2)社会資源の活用	講義 グループワーク
8回	終講試験		
評価方法	筆記試験、課題提出		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院		
参考文献	河野あけみ他:在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他:地域療養を支えるケア メディカ出版 国民衛生の動向		

【地域・在宅看護論Ⅱ】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護援助技術		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅看護活動を支えるコミュニケーション技術を習得する 2. 在宅看護に共通する技術を習得する 3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 在宅看護の活動を支えるコミュニケーション	1) 療養者や家族を支援するためのコミュニケーション (1) コミュニケーション能力のアセスメントのポイントと援助方法 (2) コミュニケーション障害の種類と援助方法 (3) 家族とのコミュニケーションと援助方法 2) 信頼関係を築くためのコミュニケーションのポイント (1) コミュニケーションをとる際の基本姿勢 (2) 多職種連携		*アクティブラーニング 講義・DVD グループワーク ロールプレイ 演習
3回 4回 5回	2. 在宅看護に必要な技法	1) ヘルスアセスメント 2) 自立支援技術 3) 安全を守る技術 4) 感染予防 5) 災害に対する準備と対応		講義・DVD グループワーク ロールプレイ 演習
6回	3. 在宅における医療管理を必要とする対象の看護	1) 褥瘡の予防とケア (1) 褥瘡発生のリスクアセスメントと発生予防 (2) 褥瘡のアセスメントと処置 (3) 除圧・体位変換に関する器具の種類と選択		講義・DVD
7回		2) 尿道留置カテーテル (1) 対象者 (2) 在宅での管理方法 (3) 合併症の予防		講義・DVD
8回		3) ストーマ（人工肛門・人工膀胱） (1) 対象者 (2) 生活の工夫 (3) 合併症の予防		講義・DVD 演習
9回		4) 胃瘻・経管栄養法 (1) 対象者 (2) 栄養剤の種類と特徴 (3) 栄養評価 (4) 合併症の予防 5) 在宅中心静脈法（HPN） (1) 対象者 (2) 栄養剤の注入方法と評価 (3) 合併症の予防		講義・DVD
10回		6) 非侵襲的陽圧換気療法（NPPV） (1) 対象者 (2) 人工呼吸器の原理・構造 (3) 気道の浄化 (4) 合併症の予防		講義・DVD
		7) 在宅酸素療法（HOT） (1) 対象者 (2) 機器の種類 (3) 合併症の予防 (4) 安全管理と援助		

		8) 在宅人工呼吸療法 (HMV)と排痰法 (1) 対象者 (2) 人工呼吸器の原理・構造 (3) 気道の浄化 (4) 合併症の予防	
11回 12回		9) 薬の自己管理支援 (1) 服薬状況の把握 (2) 医師及び薬剤師との連携 (3) 外来通院中の在宅療養者に対するケア (麻薬・化学療法)	講義
13回		10) 疼痛緩和 (1) 在宅における疼痛緩和ケア (2) 疼痛緩和ケアの適応	講義
14回		11) 排便コントロール (1) 排泄状況と障害 (2) 便秘の予防と援助(摘便) (3) 尿・便失禁の援助 12) 腹膜透析	講義・DVD
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論② 医学書院		
参考文献			

【地域・在宅看護技術】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅で療養する対象の看護	対象学年・時期	2 学年前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	29
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 在宅で療養する対象への看護の展開方法の特徴を理解する 2. 療養の場の移行に伴う看護を理解する 3. 在宅で療養する対象の状況に合わせた看護を理解する		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回 2回	1. 在宅看護の展開方法	1) 情報収集とアセスメント 2) 家族機能評価 3) 在宅看護の目標設定と看護計画 4) 実施・評価	講義 グループワーク
3回 4回 5回	2. 療養の場の移行に伴う看護	1) 退院支援・退院調整 2) 入退院時における医療機関との連携 (1) 地域連携パス (2) 外来・地域連携部門との連携 (3) 他職種との連携・協働 3) 入退所時時における施設との連携 (1) 地域包括ケアシステム (2) チームケアの意義と実際 (3) ケアマネジメント	講義 グループワーク 演習
6回	3. 訪問看護ステーション利用のしくみ	1) 退院支援・退院調整 2) 入退院時における医療機関との連携 3) 入退所時時における施設との連携	講義
7回	4. 在宅療養者の状態に応じた看護	1) 在宅で療養する高齢者とその家族 (1) 高齢者の特徴 (2) 高齢者の特性に由来する問題 (3) 高齢者の在宅看護のポイント	講義
8回	5. 療養生活の中で起こる問題と対策	2) 在宅で療養する小児とその家族 (1) 在宅療養児の動向 (2) 在宅療養児の主な症状と状態 (3) 家族への支援 (4) 社会資源・関連機関とのサービス調整	講義
9回		3) 精神障害で療養する対象者とその家族 (1) 精神疾患を有する人への訪問看護の動向 (2) 訪問看護の対象となる主な精神疾患の特徴と治療 (3) 精神疾患を有する人・家族が抱える問題 (4) 社会資源の活用 (5) 精神科訪問看護の機能と課題	講義
10回 11回		4) 難病で療養する対象者とその家族 (1) 難病とは (2) 訪問看護の対象となる主な難病、神経疾患 (3) 神経難病を患う療養者の特徴 (4) 難病を患う療養者の在宅療養支援のポイント	講義 演習

12回 13回		5) 慢性疾患で療養する対象者とその家族 (1) 在宅で療養する慢性疾患療養者の動向 (2) 在宅で療養する慢性疾患療養者の特徴 (3) 在宅で療養する慢性疾患療養者の日常生活上の援助 (4) 在宅で療養する慢性疾患療養者の家族への支援 (5) 社会資源の活用と地域における看護職の役割	講義 演習
14回		6) 終末期にある対象者とその家族 (1) 在宅における見取りの看護の理解 (2) 在宅における見取りにおいて看護職に求められる能力 (3) 在宅における見取りの看護の実際 (4) チーム医療・チームケアとの連携 (5) 家族支援とグループケア	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院		
参考文献			

【地域・在宅で療養する対象の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、在宅看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	地域・在宅看護論演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 在宅の対象者への日常生活援助と対象の機能の維持・向上に向けた支援を理解する 2. 在宅看護の展開方法を習得する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	初回訪問	1) 訪問看護におけるマナー 2) 初回訪問を計画 3) 初回訪問を計画ロールプレイ		講義 グループワーク ロールプレイ
3回 4回	1. 在宅における生活支援の方法	1) 日常生活の援助 (1) 呼吸に関する在宅看護 (2) 食生活・嚥下に関する在宅看護 (3) 排泄に関する在宅看護 (4) 移動・移乗に関する在宅看護 (5) 清潔に関する在宅看護 2) 介護用品の活用		講義 グループワーク 演習
5回 6回	2. 在宅における身体機能の維持向上に向けた援助	1) 身体機能の評価 2) 家庭で行うリハビリテーション 3) 多職種との連携		講義 グループワーク
7回 8回 9回 10回 11回 12回 13回 14回 15回	3. 事例による看護過程の展開	1) 在宅看護過程展開の特徴 (1) 情報収集 (2) アセスメント (3) 看護計画 (4) 実施 (5) 評価 2) 対象の状態に合わせた適切な援助計画 (1) ケアマネジメント: 社会資源の活用/多職種との連携 (2) 生活の場 (3) 療養者及び家族支援 (4) 在宅における安全性の確保 3) 事例の看護 (1) 脳血管障害後遺症のある療養者(回復期) (2) 難病で在宅療養をしている療養者(慢性期) (3) がん終末期の療養者(終末期) * 事例を選択して、看護過程展開を行う。		講義 グループワーク ロールプレイ
評価方法	看護過程展開提出物・課題提出物			
テキスト	系統看護学講座 地域・在宅看護論①② 医学書院			
参考文献	河野あけみ他：在宅看護論 メヂカルフレンド社 櫻井尚子他：地域療養を支えるケア (メディカ出版) 押川真喜子監修：写真で分かる訪問看護アドバンス(インターメディカ) 国民衛生の動向			

【地域・在宅看護論演習】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	-------	---------	-----------

授業科目	地域・在宅看護論実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	地域・在宅のさまざまな場で療養する個人および家族を理解し、対象の自己決定を尊重しながら地域でより良い暮らしを創造するための看護実践能力を養う。		
	実習目標及び内容		
	<p>1. 地域包括ケアシステムの実態を理解するとともに、地域における健康の保持増進に向けた支援が理解できる。</p> <p>1) 社会資源の活用、関係機関・職種との連携を理解できる</p> <p>2) 対象の健康の保持増進に向けた看護ができる</p> <p>2. 在宅で療養している対象を理解し、在宅看護に必要な基礎的能力を習得できる。</p> <p>1) 施設と在宅間の継続看護の必要性が理解できる</p> <p>2) 在宅で療養している対象の特徴が理解できる</p> <p>3) 在宅で療養している対象の援助の実践が実施できる</p> <p>3. 地域・在宅における地域包括ケアチームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける。</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 成人看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	成人看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師 ★		時間数	30
			講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 成人期における対象の特徴を理解できる 2. 成人期における対象への看護の機能・役割について理解できる 3. 成人期における保健活動の意義、健康の保持増進を図る援助を理解できる 4. 健康障害時の健康レベルに応じた看護方法を理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	I. 成人期における看護の理解 1. 成人各期における特徴	1) 青年期の成長発達と発達課題の特徴 2) 壮年期・中年期の成長発達と発達課題の特徴 3) 向老期の成長発達と発達課題の特徴	*アクティブラーニング 講義	
2回	2. 成人の生活と健康	1) 生活の視点から見た成人の健康 (1)成人を取り巻く環境 (2)成人のライフスタイルの特徴 2) 成人期の健康観 (1)生と死の動向、受療状況	講義	
3回		3) 健康教育 (1)セルフマネジメント、アンドラゴジー、ペダゴジー、エンパワーメントエデュケーション	講義	
4回	3.健康を阻害する生活行動要因	1) 健康な生活の保持・増進への看護 (1)生活習慣病予防 (2)ストレス (3)職業に関連する健康障害	講義・演習	
5回		2) 健康診断の重要性と健康生活保持のための指導 3)健康増進・疾病予防に伴う施策や取り組み	講義・演習	
6回	4. 看護の対象、看護の視点	1) 主体的な健康行動の促進 2) 健康生活を支援する環境づくり 3) 看護の場と主な活動内容 4) 主な活動内容 5) 症状マネジメントに向けた支援	講義	
7回	5. 成人の特性や能力に応じた看護の目的	1) 自立した存在を尊重したアプローチ 2) 独自の考えや行動パターンを尊重したアプローチ 3) 家庭・社会で役割を担う存在を尊重したアプローチ	講義	

8回	II.健康レベル(経過別)に 応じた看護 1.急性期看護とは	1)健康レベル(経過別)とは 2)急性期の概念および看護の概要 3)生命の危機状態 4)急激な健康破綻をきたした人の看護 5)健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴(危機理論) 6)早期回復に向けての援助(酸素化促進、消化管機能維持、体液の改善) 7)救急看護	講義
9回	2.回復期看護とは	1)回復期の概念および看護の概要 2)リハビリテーションの概念および看護の概要・国際生活機能分類(ICF) 3)社会復帰に向けた看護の概要	講義
10回	3.慢性期看護とは	1)慢性期の概念および看護の概要 (1)慢性期の健康状態とは (2)慢性的経過をたどる対象の精神的・社会的特徴 (3)セルフコントロールへの援助 (4)慢性期の寛解と増悪	講義
11回	4.終末期看護とは	1)終末期の概念および看護の概要 (1)終末期にある対象の身体的・精神的・社会的影響と苦痛 (2)苦痛のアセスメント(全人的苦痛) (3)疼痛コントロール	講義
12回		(4)QOLの保証(ACP、リビングウィル) (5)グリーフケア・悲嘆へのケア (6)デスカンファレンス (7)看取りの場(緩和ケア病棟、在宅) (8)臨終時の看護(死後の処置含む)	講義 演習
13回	5.治療と看護	1)手術療法時の看護 (1)術前の看護 ①手術療法・身体侵襲の意義②術前患者のアセスメント ③術前看護の役割 (2)術中の看護 ①麻酔法の種類と合併症 ②術中患者のアセスメント ③術中看護の役割④外科的ガウンテクニック⑤外科的手洗い (3)術後の看護 ①術後経過と生体反応 ②術後患者のアセスメント ③術後合併症の早期発見と予防 2)集中治療時の看護	講義 演習

14 回		2) 薬物療法時の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の援助 (2) 抗がん剤投与時の観察と援助 (3) 有害事象に対する症状のマネジメント 3) 放射線療法時の看護 (1) 放射線療法を受ける患者の援助 (2) 放射線防護 ① 被爆防護の3原則 (3) 医療者の健康管理 4) 食事療法時の看護 (1) 食事療法を受ける患者の援助 ① 栄養・カロリー低下の予防 ② 自己管理への援助	講義
15 回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験 演習課題 演習参加状況		
テキスト	系統看護学講座 専門分野 I 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③ (医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 国民衛生の動向 (厚生労働統計協会)		
参考文献			

【成人看護学概論】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 (運動器)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 運動機能障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる 2. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 運動機能障害をもつ患者の観察とアセスメント 2. 運動機能障害の症状に対する看護	1) 観察とアセスメント (1) 身体機能・ADL 評価 (2) 四肢の形状、姿勢・運動、歩行の正常性 (3) 障害受容の程度と原因 (4) 心身・日常生活への影響 (道具の活用) 2) 症状に対する看護 (1) 関節・脊柱の疼痛の緩和 (2) 関節可動域制限・麻痺・循環障害の看護	講義	
2回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 画像検査を受ける患者の看護 ・ X 線・MRI・脊髄造影検査(ミエログラフィ) ・ 椎間板造影検査・関節造影検査 (2) 電気生理学的検査を受ける患者の看護 (3) 関節鏡検査を受ける患者の看護 (4) 筋生検を受ける患者の看護 (5) 関節可動域検査、徒手筋力テスト	講義	
3回	4. 治療を受ける患者の看護	4) 保存療法を受ける患者の看護 (1) 効果的な固定法・牽引法と生活の援助 (2) ギプス固定・各種牽引療法時の合併症予防 (3) 副子固定を受ける対象の看護	講義	
4回		5) 手術を受ける患者の看護 (1) 骨折の観血的整復固定術の看護 (2) 人工関節術後の看護 (3) 四肢切断・再接着術の看護 (4) 脊柱手術後の生活の援助	講義	
5回	5. 疾患をもつ患者の看護	6) 疾患をもつ患者の看護 (1) 腰痛患者の看護 (2) 脊椎損傷患者の看護 (3) 骨腫瘍患者の看護 (4) 関節リウマチ患者の看護	講義	
6回	6. 機構が担う特徴ある運動器に障害のある患者の看護	1) 重症心身障害者の看護 2) 筋ジストロフィー症患者の看護	講義	
7回	7. 意識障害のある患者の看護	1) 意識障害のある患者の看護 (1) 意識障害とは	講義	

		(2)意識障害の分類・評価・原因 (3)生命維持のために必要な処置や治療 (4)合併症や身体の危険の予防 (5)日常生活の援助	
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 運動器 成人看護学⑩ (医学書院) 系統看護学講座 別巻 リハビリテーション看護 (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院)		
参考文献			

授業科目	運動機能に障害のある成人の看護 (脳神経)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 認知機能・コミュニケーション障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる 2. 感覚機能障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1.脳神経障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1)意識障害の原因・評価 (2)言語障害の種類・言語以外のコミュニケーション能力 (3)言語・行動・神経学的検査の正常性 (4)意識障害の程度と原因、日常生活の援助 (5)注意・記憶障害、空間認知障害の原因と程度、心身・日常生活への影響		講義
2回	2.脳神経障害の症状と看護	2) 症状に対する看護 (1)遷延性意識障害患者の看護 (2)注意・記憶障害に対応した生活指導 (3)空間失認の生活訓練・環境調整 (4)失語・構音障害の生活訓練と援助 (5)片麻痺患者の日常生活の訓練と介助方法		講義
3回	3. 検査を受ける患者の看護 4.治療を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1)脳血管造影検査時の援助 (2)脳波検査時の援助 (3)髄液検査時の援助 4) 治療を受ける患者の看護(保存的療法・手術療法) (1)ドーパミン補充療法の服薬指導 (2)脳の血腫・腫瘍・動脈瘤摘出時の看護		講義
4回	5.脳神経系の疾患と看護	5) 疾患をもつ患者の看護 (1)クモ膜下出血患者の看護 (2)脳腫瘍患者の看護 (3)頭部外傷患者の看護 (4)重症筋無力症患者の看護 (5)筋萎縮性側索硬化症(ALS)患者の看護		講義
5回	6.感覚機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1)各感覚機能障害の原因と程度 (2)検査所見の正常性 (3)心身・日常生活への影響 2) 症状に対する看護 (1)視力・視野障害の看護 (2)聴覚障害の看護 (3)平衡感覚障害の事故防止 (4)神経障害の生活指導 (5)味覚・嗅覚障害の看護 (6)点眼薬与薬時の事故防止		講義

6回	7.感覚機能障害の検査を受ける患者の看護 8.手術療法を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1)視力検査・眼底検査・眼圧検査・視野検査を受ける患者の看護 (2)聴力および平衡機能検査を受ける患者の看護 (3)咽頭・喉頭の内視鏡検査を受ける患者の看護 (4)味覚検査を受ける患者の看護	講義
7回		4) 手術療法を受ける患者の看護 (1)光凝固・硝子体手術の看護 (2)角膜移植術の看護 (3)鼓室形成術の看護 (4)副鼻腔手術の看護	講義
8回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 脳・神経 成人看護学⑦ (医学書院)		
参考文献			

【運動機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (血液・造血)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	8
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 血液・造血器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 血液・造血機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 貧血症状の有無と程度・赤血球系の疾患の特徴 誘因・増悪因子 (2) 出血傾向に伴う問題・誘因・増悪因子 (3) 白血球減少の有無と程度 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2回	2. 血液・造血機能障害の症状と看護 3. 検査を受ける患者の看護	2) 症状に対する看護 (1) スタンダードプリコーション・感染経路に対応した感染予防・職業上の感染予防 (2) 出血の予防・出血時の処置 3) 検査を受ける患者の看護 (1) 骨髄穿刺時の援助		
3回 4回	4. 疾患を持つ患者の看護	4) 白血病・悪性リンパ腫・HIV (1) 化学療法を受ける患者の看護 (2) 輸血療法を受ける患者の看護 (3) 骨髄移植・造血幹細胞移植時の看護 (4) 移植時の倫理的配慮		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 血液・造血器 成人看護学④ (医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)			

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (呼吸器)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 呼吸器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1.呼吸機能障害をもつ患者の観察とアセスメント	1)観察とアセスメント (1) 咳嗽・喀痰・血痰・喀血・胸痛・呼吸困難 (2) 呼吸音の聴取法、胸郭運動の視診法 (3) 胸水観察法 (4) 呼吸器症状・喀痰・肺機能検査、動脈血ガス分析値の正常性 (5) 換気障害・ガス交換障害の程度・分類・原因 (6) 心身・日常生活への影響		講義
2回	2.呼吸機能障害の症状と看護	2)症状に対する看護 (1) 呼吸困難時の安楽な体位 (2) 喀痰困難時の肺理学療法 (3) 喘息発作時の対応と予防指導 (4) 慢性呼吸不全の呼吸療法と生活指導		
3回	3.検査を受ける患者の看護	3)検査を受ける患者の看護 (1) 気管支鏡・造影検査時の援助 (2) 胸腔穿刺検査・肺生検時の看護		講義
4回	4.治療・処置を受ける患者の看護	4)治療・処置を受ける患者の看護 (1) 肺切除術(患者の特徴、手術前・手術後(胸腔内低圧持続吸引)・回復期) (2) 胸腔鏡下手術の合併症予防 (3) 抗アレルギー薬・気管支拡張薬・副腎皮質ステロイド薬の服薬指導 (4) 吸入療法・酸素療法・胸腔ドレナージの管理		講義
5回	5.疾患を持つ患者の看護	5)疾患を持つ患者の看護 (1) 肺癌患者の病期に応じた援助(化学療法、放射線療法) (2) 肺炎の病期に応じた援助 (3) 慢性閉塞性肺疾患の病期に応じた援助(急性増悪時の看護、安定期の看護、看取りに向けての看護) (4) 気管支喘息の病期に応じた援助(急性喘息発作時の看護、慢性安定期の看護) (5) 人工呼吸器を装着する患者の看護 (6) 結核患者の看護(急性期、慢性期)		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 呼吸器 成人看護学②(医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④(医学書院)			

授業科目	生命維持機能に障害のある成人の看護 (循環器)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	11
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 循環器系に障害をもつ成人及びその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 循環機能障害をもつ患者の観察とアセスメント 2. 循環機能障害の症状と看護	1) 観察とアセスメント (1) 胸痛・動悸・浮腫・呼吸困難・チアノーゼ・ショック (2) 浮腫・うっ血の観察法 (3) 身体所見・自律神経反射・心電図所見の正常性 (4) 障害の原因と程度 (5) 心身・日常生活への影響 2) 症状に対する看護 (1) 血圧コントロールの生活指導		講義
2回	3. 検査・治療処置を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 心臓カテーテル検査・心血管造影検査 (2) 心電図検査時の援助 (3) 動脈血ガス分析時の援助 4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) ペースメーカー装着時の生活指導 (2) PCI・経皮的冠状動脈形成術の看護 (3) 降圧・利尿剤・抗不整脈剤・抗強心薬の服薬指導 (4) 抗凝固薬・血栓溶解薬・抗血小板薬の服薬指導 (5) 大動脈バルーンパンピング(実施中の看護) (6) 植込み型除細動器(挿入後の看護)		講義
3回 4回 5回	4. 疾患を持つ患者の看護 5. 手術を受ける患者の看護	5) 疾患を持つ患者の看護 (1) 心不全患者の病期に応じた援助 (2) 虚血性心疾患患者の病期に応じた援助 (3) 不整脈のある患者への援助 (4) 下肢動脈閉塞症の患者への援助 6) 開心術を受ける患者の看護 (1) 経皮的冠動脈形成術(手術前・手術後の看護) (2) 冠動脈バイパス術(手術前・手術後の看護) (3) 弁置換術(手術前・手術後・回復期の看護) (4) 血栓溶解療法・血栓除去術(手術後の看護)		講義

6回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 循環器 成人看護学③ (医学書院)
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 臨床看護総論 基礎看護学④ (医学書院)

【生命維持機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	16
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 栄養摂取・消化・吸収・排泄機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 消化器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 嚥下困難、おくび・胸やけ、吐き気・嘔吐 腹痛、吐血・下血、下痢、便秘、腹部膨満 食欲不振、黄疸、意識障害(肝性脳症) (2) 視診、聴診、打診、触診、直腸指診 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2回	2. 消化器症状に対する看護	2) 症状に対する看護 (1) 嚥下困難 (2) おくび・胸やけ (3) 吐き気・嘔吐 (4) 腹痛 (5) 吐血・下血 (6) 下痢 (7) 便秘 (8) 腹部膨満 (9) 食欲不振 (10) 黄疸 (11) 意識障害(肝性脳症)		講義
3回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 腹部超音波検査 (2) CT・MRI 検査 (3) 肝生検 (4) 消化器内視鏡検査 (5) 消化管造影検査		講義
4回	4. 治療・処置を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法 (2) 化学療法 (3) 栄養療法・食事療法 (4) 放射線療法		講義
5回 6回	5. 手術を受ける患者の看護	5) 消化器の手術を受ける患者の看護 (1) 食道疾患の手術 (2) 胃・十二指腸疾患の手術 (3) 腸・腹膜疾患の手術 (4) 肝臓・胆嚢疾患の手術 (5) 膵臓疾患の手術		講義
7回	6. 合併症とその予防	6) 合併症予防(呼吸器合併症、血栓塞栓症、術後イレウス、せん妄等) (1) 呼吸器合併症 (2) 循環器系合併症 (3) 消化器系合併症 (4) 泌尿器系合併症 (5) 術後せん妄		講義
8回	7. 手術後の環境の準備	7) 消化器疾患患者の術後ベッドの作成 (手順・根拠・留意点) 8) 術後の環境調整		演習 (実習室)
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 消化器 成人看護学⑤ (医学書院)			
参考文献	講義から実習へ 高齢者と成人の周手術期看護 2 術中/術後の生体反応と急性期看護 第3版 医歯薬出版株式会社			

授業科目	消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	13
			テスト時間	1(45)
学習目標	1. 代謝機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる 2. 内分泌機能に障害を持つ成人とその家族への看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1.代謝性障害患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 代謝機能障害の原因と程度 (2) 体重変化・身長の変化、容貌の変化 神経・筋症状、循環器症状、消化器症状、皮膚の変化 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響		講義
2回 3回	2.代謝機能障害患者の看護	2) 代謝障害患者の看護 (1) 糖尿病患者の看護 (2) 脂質異常症患者の看護 (3) 肥満患者の看護 (4) るい痩患者の看護 (5) 尿酸代謝異常患者の看護		講義
4回		3) 生活指導を中心とした看護 (1) 健康学習支援、健康教育		講義
5回 6回	3.内分泌障害患者の看護	1) 観察とアセスメント (1) 内分泌機能障害の原因 (2) 体重変化・身長の変化、容貌の変化 神経・筋症状、循環器症状、消化器症状、皮膚の変化、無月経 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 内分泌機能障害患者の看護 (1) 内分泌疾患の検査を受ける患者の看護 (2) 下垂体疾患患者の看護 (3) 甲状腺疾患患者の看護 (4) 副甲状腺疾患患者の看護 (5) 副腎疾患患者の看護		講義
7回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 内分泌・代謝 成人看護学⑥ (医学書院)			
参考文献				

【消化機能、代謝機能に障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、成人看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護（腎・泌尿器）	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	11
		テスト時間	1(45)
学習目標	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. 腎・泌尿器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) 腎・泌尿器機能障害の原因と程度 (2) 尿の異常、排尿に関連した症状、浮腫、脱水、循環器系の異常、血液の異常、尿毒素、疼痛、腫脹・腫瘤、性機能障害 (3) 視診・触診 (4) 検査所見の正常性 (5) 心身・日常生活への影響	講義
2回	2. 症状に対する看護	2) 症状に対する患者の看護 (1) 浮腫のある患者の看護 (2) 高血圧のある患者の看護 (3) 下部尿路症状のある患者の看護 (4) 尿の性状異常のある患者の看護 (5) 疼痛のある患者の看護	講義
3回	3. 検査を受ける患者の看護	3) 検査を受ける患者の看護 (1) 尿検査 (2) 残尿測定検査 (3) 膀胱鏡検査 (4) 画像検査 (5) 生検 (6) 尿流動態検査 (7) 腎機能検査	講義
4回	4. 治療・処置を受ける患者の看護 5. 血液透析を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護 (2) 食事・運動療法を受ける患者の看護 (3) 腎・泌尿器疾患を持つ患者の看護 (4) 導尿・尿カテーテル留置する患者の看護 (5) 膀胱の手術を受ける患者の看護 (6) 前立腺の手術を受ける患者の看護 (7) 腎臓の手術を受ける患者の看護 (8) 精巣の手術を受ける患者の看護 (9) 尿路結石の手術を受ける患者の看護 (10) 腎移植を受ける患者の看護 5) 血液透析を受ける患者の看護 (1) 治療選択期の患者の看護 (2) 血液透析患者の看護 (3) 腹膜透析患者の看護	講義
5回	6. 男性生殖器に障害をもつ患者の看護	6) 男性生殖器機能障害 (1) 不妊の原因と程度 (2) 性感染症(STD) (3) 男性生殖器疾患	講義

6回	まとめ/終講試験
評価方法	筆記試験
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 腎・泌尿器 成人看護学⑧ (医学書院)
参考文献	

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護 (女性生殖器)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	8
		テスト時間	試験別
学習目標	1. 女性生殖器系に障害をもつ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1.女性生殖器系に障害をもつ患者の観察とアセスメント 2.診療の介助	1) 観察とアセスメント (1) 女性生殖器機能障害の原因と程度 (2) ショック、出血、帯下、疼痛、発熱、下腹部膨満・腫瘤感、外陰部搔痒感、排尿障害、自律神経症状、不定愁訴、リンパ浮腫 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 診療の介助 (1) 外診時の看護、内診時の看護 (2) 理学的検査 (3) 病理検査 (4) 細菌・ウイルス・原虫検査 (5) 画像検査 (6) 腫瘍マーカー検査 (7) 妊娠検査 (8) 内視鏡検査 (9) 染色体検査・遺伝子検査 (10) 検査・処置時の看護	講義
2回	3.症状に対する看護	3) 症状に対する看護 (1) ショック状態患者の看護 (2) 性器出血患者の看護 (3) 帯下・搔痒感のある患者の看護 (4) 疼痛のある患者の看護 (5) リンパ浮腫のある患者の看護 (6) 下腹部膨満・腫瘤感のある患者の看護 (7) 自律神経失調症状・不定愁訴のある患者の看護	講義
3回	4.治療・処置を受ける患者の看護	4) 治療・処置を受ける患者の看護 (1) 膣洗浄 (2) 膣タンポン (3) 導尿 (4) 腹腔穿刺 (5) ダグラス窩穿刺 (6) レーザー治療 (7) 薬物療法 (8) 放射線療法 (9) 体外受精	講義
4回	5.手術を受ける患者の看護	5) 手術を受ける患者の看護 (1) 外性器の手術を受ける患者の看護 (2) 内性器の手術を受ける患者の看護 (3) 乳房の手術を受ける患者の看護	講義
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 女性生殖器 成人看護学⑨ (医学書院)		
参考文献			

授業科目	排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある 成人の看護 (感染症・アレルギー・膠原病)	対象学年・時期	2年次・前期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	10
		テスト時間	試験別
学習目標	1. アレルギーを持つ成人とその家族への看護が理解できる 2. 膠原病を持つ成人とその家族への看護が理解できる 3. 感染症を持つ成人とその家族への看護が理解できる		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の観察とアセスメント	1) 観察とアセスメント (1) アレルギーの原因と程度 (2) 喘息、鼻炎、食物・薬物・ラテックス・職業性・ペット昆虫アレルギー、蕁麻疹、アナフィラキシー (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 2) 観察とアセスメント (1) 膠原病の原因と程度 (2) 関節痛・関節炎、レイノー現象、皮膚・粘膜症状、発熱、タンパク尿、筋力低下、血管炎に伴う症状 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響 3) 観察とアセスメント (1) 感染症の原因と程度 (2) 気道の症状、胸痛、腹痛、頭部にみられる症状、感染性心内膜炎、皮疹、筋・骨にみられる症状、発熱、不明熱 (3) 検査所見の正常性 (4) 心身・日常生活への影響	講義
2回	2. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の症状に対する看護	1) 症状に対する看護 (1) 呼吸器症状 (2) 消化器症状 (3) 皮膚症状 (4) 眼症状 (5) 循環器症状	講義
		2) 症状に対する看護 (1) 発熱 (2) 関節症状 (3) 皮膚・粘膜症状 (4) 筋症状 (5) レイノー現象	
		3) 症状に対する看護 (1) 発熱 (2) 発疹 (3) 下痢	

3回		4) 検査を受ける患者の看護 (1) 抗原特異的 I g E、総 I g E (2) 白血球検査 (3) リンパ球刺激試験 (L S T) (4) スキンテスト・パッチテスト	講義・演習
4回	3. アレルギー疾患患者・膠原病患者・感染症患者の治療と看護	1) 治療を受ける患者の看護 (1) 日常生活の改善 (2) 薬物療法を受ける患者の看護 (3) アレルゲン免疫療法を受ける患者の看護	講義
		2) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護 (2) 手術療法を受ける患者の看護	
		3) 治療を受ける患者の看護 (1) 薬物療法を受ける患者の看護	
5回		4) 生活指導 (1) アレルギー疾患をもつ人の援助 (2) 自己免疫疾患をもつ人の援助	講義
		5) 感染防御 (1) 感染予防	
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 膠原病・アレルギー・感染症 成人看護学⑪ (医学書院)		
参考文献			

【排泄機能・生殖機能・免疫機能障害のある成人の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、看護の理解を深める
--------	------	---------	---------------------

授業科目	成人看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 成人期を対象とした看護過程展開ができる 2. 成人期の看護に必要な看護技術が習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 成人期にある対象者の理解	1) 成人期の発達段階 2) 胃癌で手術を受ける患者の看護 3) 周手術期の看護・回復期の看護		*アクティブラーニング 講義・演習
2回	2. 胃癌の病態理解	1) 病態把握(関連図)		演習
3回～ 6回	3. 看護過程の展開	1) 事例のアセスメント(術前・術後情報整理・分析) 全体像の把握(関連図)		講義 演習
7・8回		2) 看護問題の明確化(問題リスト)		演習
9・10回		3) 看護計画立案(看護計画)		演習
11回	4. 集中治療と看護	1) 集中治療とは 2) 集中治療を受ける対象者とその家族への援助		演習
12・13回	5. 指導技術	1) 援助の実際(患者指導) 2) 看護計画の評価		演習
14回	6. 救命救急	1) 救命救急の看護 2) 気道確保(挿管)・人工呼吸		演習
15回		3) 気管内吸引		演習
		4) 意識レベルの見方の実際 5) 心臓マッサージ・AED		
評価方法	演習課題、 演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学総論 成人看護学① (医学書院) 系統看護学講座 別巻 臨床外科看護総論・臨床外科各論 (医学書院) 看護診断ハンドブック (医学書院) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく 実践看護アセスメント (ヌーヴェルヒロカワ)			
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学② (医学書院) 根拠と事故防止から見た 基礎・臨床看護技術 (医学書院)			

【成人看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	成人看護学実習 (成人期の対象理解と生活を支える看護)	対象学年・時期	2年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	成人期の対象を理解し、生活と健康を育むために必要な看護について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 成人期にある対象の身体的・精神的・社会的特徴を理解する</p> <p>(1) 成人期の身体面の発達及び身体機能の変化を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 成人期の心理面の発達及び機能的変化を記述(説明)できる。</p> <p>(3) 成人期の社会的役割を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 成人期の生活と、成人を取り巻く環境について記述(説明)できる。</p> <p>2) 成人期の対象が健康を維持・促進し、自立した生活を送るための援助を理解する。</p> <p>(1) 成人期の健康問題の特徴と健康観について記述(説明)できる。</p> <p>(2) 成人期の健康問題の特徴と健康観について文献を用いて考察できる。</p> <p>(3) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための対策を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための支援方法を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 成人期にある対象が健康を保持・増進するための生活の場に応じた支援を記述(説明)できる。</p> <p>3) 多様な場で生活する成人の健康問題への援助を理解する。</p> <p>(1) 健康問題が対象に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 対象に行われる検査・治療・処置に必要な援助を記述(説明)できる。</p> <p>(3) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 健康問題を抱える対象の家族に必要な援助を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 治療に必要な意思決定支援の場での看護について記述(説明)できる。</p> <p>(6) 対象の健康状態に応じた援助を実施できる。</p> <p>(7) 療養の場における対象を支える多職種連携について記述(説明)できる。</p> <p>4) 保健医療チームの一員として、看護の専門職者に求められる姿勢を身につける。</p> <p>(1) 成人期にある対象の生活と健康を育むために必要な看護について自己の考えを表現できる。</p> <p>(2) 看護の専門職者として信頼を得るための、責任ある行動がとれる。</p> <p>(3) 実習目標の達成に向けて、主体的な学習ができる。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係を持つことができる。</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 老年看護学 】

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	高齢者看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
講師名	看護師 ★		時間数	15
			講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1.高齢者の身体的・社会的・精神的特徴とその生活について理解できる 2.社会構造の変化と保健医療福祉制度の動向を理解できる 3.老年期における健康課題と看護の役割について理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. ライフサイクルからの高齢者の理解	1) 老年期の定義 2) 加齢と老化 3) 老年期の発達課題(エリクソン、ペック、バトラー)	*アクティブ ラーニング 講義	
2回	2. 生活史からの高齢者の理解 3. 高齢者の生活の変化	1) 生活史からみた高齢者 2) 高齢者の多様性 1) 生活の場、住宅環境 2) 生活リズムと生活習慣 3) 役割と生活活動、余暇活動 4) 就労・雇用 5) 収入・生計	講義	
3回	4. 加齢に伴う変化 5. 老年期の健康課題 (身体的・精神的・社会的)	1) 加齢に伴う変化の特徴 2) 身体的変化 3) 精神的変化 4) 社会的変化 5) セルフケア 1) 老年期の健康の捉え方 (1) 生きがいと生活の満足感 (2) ストレングス (3) サクセスフルエイジング	講義 講義	
4回	6. 健康増進・疾病予防に伴う 施策や取り組み 7. 生活(療養)の場に応じた 看護(病院・施設・在宅等) 8. 高齢者と家族	1) 健康状態が急速に変化する対象の身体的・心理的・社会的特徴 (1) フレイル 1) 高齢者とヘルスプロモーション (1) 地域包括ケアシステム 2) 保健医療福祉施設および居住施設における看護 (1) 介護保険施設 (2) 地域密着型サービス (3) 住まい 1) 家族構成の変化 2) 家族形態の変化 3) 老年者と家族の人間関係 4) 介護と家族	講義 講義	

5回	9. 高齢者の保健・医療・福祉の動向	1)人口学指標 2)健康指標 3)老人保健法 4)老人福祉法 5)老人医療制度 長寿医療制度 6)年金制度 7)介護保険 8)医療費の助成制度の活用 9)保健医療福祉施設	講義
6回	10. 高齢者とQOL 11. 老年看護における倫理的課題	1)老年者の尊厳と権利擁護 (1)高齢者に対するスティグマ (2)エイジズム (3)権利擁護(アドボカシー) (4)ノーマライゼーション (5)高齢者を支える社会資源 ①フォーマルサービス・インフォーマルサポート 1)高齢者虐待 (1)養護者・従事者による虐待 (2)発生要因と予防に向けた支援 2)身体拘束・抑制 3)高齢者の権利を守る制度 (1)日常生活自立支援制度 (2)地域福祉権利擁護事業・成年後見制度	講義
7回	12. 老年看護の役割	1)経過に応じた看護 (1)高齢者への介護予防・認知症予防 2)治療に応じた看護 (1)高齢者への薬物療法・服薬管理 (2)高齢者へのがん治療と看護 (3)家族への援助	講義
8回	終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院)		
参考文献	新体系看護学全書 老年看護学① 老年看護学概論/老年保健 (メヂカルフレンド社) 看護学テキスト NiCE 老年看護学概論「老いを生きる」を支えることは (南江堂)		

【高齢者看護学概論】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	DVD 等を活用し高齢者を理解する
--------	-------	---------	-------------------

授業科目	高齢者の健康な生活の保持・増進に向けた看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 高齢者の加齢に伴う健康状態や日常生活能力をアセスメントする方法が理解できる 2. 高齢者とその家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法を理解できる 3. 加齢に伴う症状に対する援助方法について理解できる 4. 高齢者とその家族の自立を支える日常生活の援助が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 高齢者への基礎的援助	1) 高齢者の観察	講義 演習 グループワーク	
2回		2) コミュニケーション(感覚機能低下・認知力低下) (1) 高齢者とのコミュニケーションと関わり方 (2) 状況に応じたコミュニケーション方法 3) 加齢による身体変化への援助 4) 家族の健康・自立を支えるための基礎的援助方法		
3回	2. 自立を支える日常生活の援助 (日常生活能力のアセスメントと援助の方法)	1) 基本動作と環境 (1) 転倒・廃用症候群	講義	
4回 5回		2) 食生活と栄養 (1) 嚥下訓練 (2) 口腔ケア・義歯の取り扱い	講義 演習 (実習室)	
6回 7回		3) 活動・運動とレクリエーション (1) 歩行介助 (2) 移動	講義 演習 (実習室)	
8回		4) 休息と睡眠 (1) 生活リズム (2) 昼間のケア・夜間のケア(睡眠薬の使用法)	講義	
9回 10回		5) 排泄 (1) 高齢者の排泄ケア (2) オムツ交換 ポータブルトイレへの援助	講義 演習 (実習室)	
11回		6) 清潔・身だしなみ (1) 入浴介助・フットケア・耳のケア 7) 性生活 (1) 高齢者のセクシュアリティ 8) 住環境・対人関係 (1) 社会参加活動	講義	
		12回	9) 家族への援助 (1) 家族のアセスメント (2) 介護家族への援助	講義 演習 グループワーク

13回	3. 高齢者に多い 事故への対応	(1)転倒・転落 (2)熱傷 (3)窒息 (4)感染	講義
14回	4. 加齢に伴う症状 と看護	1)痛み 2)掻痒感 3)不眠 4)痺れ 5)冷え 6)振戦7)便秘・尿失禁 8)脱水 9)うつ10)難聴 11)視力障害	講義
			講義 グループワーク
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 (医学書院)		
参考文献			

【高齢者の健康な生活の保持・増進に向けた看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、高齢者看護の理解を深める
--------	------	---------	------------------------

授業科目	健康障害のある高齢者の看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 高齢者の健康障害の特徴が理解できる 2. 治療を受ける高齢者とその家族への看護が理解できる 3. 高齢者に特徴的な疾患について、家族を含めた看護が理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 健康障害のある高齢者の特徴	1) 高齢者に起こりやすい疾患の特徴 (1)せん妄 (2)うつ病 (3)認知症		*アクティブラーニング 講義
3回 4回		2) 高齢者に多く見られる症状と現れ方 (1)低栄養(2)脱水症(3)感染症 (4)めまい(5)浮腫(6)低体温(7)熱中症		講義
5回		3) 高齢者の健康のアセスメントと観察の視点 (1)高齢者ヘルスアセスメント (2)身体に加齢変化とアセスメント		講義 演習
6回 7回	2. 寝たきりの防止と自立支援	1) 持てる力(患者の強み・患者にできること)に目を向けた支援 (1)老年期の健康の捉え方(ICFモデル) 2)生活と自己管理の調整 (1)フレイル (2)介護予防		講義 演習
8回	3. 身体可動性障害の高齢者の看護	1)老年症候群 (1)起立・歩行障害 (2)運動器症候群		講義
9回	4. 受療形態に応じた看護	1)外来受診時の看護 2)検査時の看護 3)入院時の看護 4)退院時の看護		講義
10回	5. 治療を受ける高齢者の看護	1)経過に応じた看護 2)手術療法時の看護 3)リハビリテーション時の看護 4)薬物療法時の看護 5)高齢者を介護する家族への看護 (1)家族の役割 (2)家族の健康と介護力		講義
11回 12回 13回	6. 高齢者特有の疾患と看護	1)特徴的な疾患と家族を含めた看護 (1)骨粗鬆症 (2)大腿骨頸部骨折 (3)白内障 (4)前立腺肥大症 (5)脳梗塞・脳出血 (6)パーキンソン病 (7)誤嚥性肺炎 (8)疥癬		講義

14回	7. 終末期の家族のニーズの充足への関り	1) 高齢者におけるエンドオブライフケア (1) 予期的悲嘆 (2) 意思決定への支援 ①アドバンスケアプランニング②リビングウィル (3) 家族への支援 2) 終末期に求められる援助 (1) 看取の場(緩和ケア病棟、在宅) 3) 家族への援助 (1) グリーフケア (2) デスカンファレンス	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 (医学書院) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 (医学書院)		
参考文献			

【健康障害のある高齢者の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、高齢者看護の理解を深める
--------	------	---------	------------------------

授業科目	高齢者看護学演習		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 高齢者を対象とした看護過程の展開ができる 2. 高齢者およびその家族に必要な看護技術を習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 大腿骨頸部骨折で入院した高齢者に必要な治療・看護を理解する	1) 事例を理解するために必要な知識 (1) 情報で注目すべきポイントの確認 (2) 情報を分析・解釈するために必要な知識		*アクティブラーニング 講義 DVD 視聴
2回	2. 事例における看護過程の展開	1) 事例の理解 (1) 病態関連図 (2) 情報収集		講義 演習
3～5回		1) 事例の理解 (1) 情報の整理・分析		講義 演習
6～7回		1) 事例に応じた看護援助の方法を考える 2) 看護問題の明確化 3) 看護問題・協働問題の抽出		講義 演習
8～9回		1) 事例に応じた看護援助の方法を考える (1) 看護計画立案		講義 演習
10回		1) 事例に応じた看護援助の方法を考える (1) 立案した看護計画 (2) 期待される結果、看護介入の内容		講義 演習
11～12回		1) 事例に応じた援助の実施・評価 ロールプレイングによる看護実践		講義 演習 (実習室)
13～15回	3. 高齢者及び家族へ必要な基本的な看護技術を理解する	脳梗塞により左片麻痺となった高齢者及びその家族への援助・個別指導 1) 車椅子への移乗・移送 2) 良肢位 3) 義歯の取り扱い		講義 技術演習 ロールプレイング (実習室)
評価方法	個人・グループワーク・演習課題、グループワーク・演習参加状況			
テキスト	1) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護学 医学書院 2) 系統看護講座 専門Ⅱ 老年看護 病態・疾病論 医学書院 3) ヘンダーソン・ゴードンの考えに基づく看護実践アセスメント第3版			
参考文献	看護テキスト NiCE 老年看護学技術 最後までその人らしく生きることを支援する (南江堂) ナーシング・グラフィカ 老年看護学②高齢者看護の実践 (メディカ出版)			

【高齢者看護学演習】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	高齢者を対象とした演習課題に取り組み、看護過程の展開ができる
--------	-------	---------	--------------------------------

授業科目	<p style="text-align: center;">老年看護学実習</p> <p style="text-align: center;">(老年期の対象理解と生活を支える看護)</p>	対象学年・時期	2年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	<p>老年期にある対象を理解し、加齢と健康障害に応じた看護に必要な基礎的知識・技術・態度を習得する</p>		
	<p>実習目標及び内容</p>		
	<p>1. 高齢者の特徴を理解し加齢や疾病に伴う生活機能障害への看護ができる</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象の加齢や疾病に伴う身体的特徴を記述(説明)する 2) 対象の加齢や疾病に伴う心理・精神的特徴を記述(説明)する 3) 対象の加齢や疾病に伴う社会的特徴を記述(説明)する 4) 健康障害が対象に及ぼす影響を記述(説明)する 5) 対象の抱える健康上の課題を記述(説明)する 6) 対象の状態に応じた支援内容を記述(説明)する 7) 対象の安全・安楽・自立性を踏まえた援助を記述(説明)する 8) 予測された二次障害や危険を予防するための援助を実施する 9) 対象の価値・信念の多様性を踏まえた援助を実施する 10) 対象の状態に応じた生活機能の維持・向上を考慮した援助を実施する <p>2. 高齢者の QOL 維持・向上に必要な多職種との連携を理解する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 対象と家族を支える社会資源について記述(説明)する 2) 多職種連携と看護師の役割について記述(説明)する 3) 施設における看護師の役割について記述(説明)する 4) 施設における多職種との連携・協働の必要性を記述(説明)する <p>3. 対象の尊厳・権利に基づく、看護の専門職としての倫理的態度を習得する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 高齢者の価値観や思いを傾聴する姿勢を示す 2) 対象の反応を確認し、自尊心やペースに配慮する 3) 医療・看護チームの一員として適切な人間関係を持つ 4) 自己の役割を自覚し、責任をもった行動ができる 5) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある 6) 対象との関わりを通して老年期の対象理解と生活を支える看護に対する自己の考えを記述(説明)する 		
評価方法	<p>評価表による評価</p>		

授業科目	経過別看護 (急性・回復期にある対象の看護)	対象学年・時期	3年生・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	生命の危機的状況にある対象の健康回復に向けた看護ができる		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 生体機能の急激な変化が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を理解する</p> <p>(1) 生命の危機状態にある対象の身体的特徴を記述する</p> <p>(2) 手術侵襲により変化する対象の病態(器質的・機能的)を解剖生理の知識に基づき記述する</p> <p>(3) 生命の危機状態にある対象の心理的反応を記述する</p> <p>(4) 急激な健康状態の変化が対象の社会的側面に及ぼす影響を記述する</p> <p>2) 生命を維持する為の援助ができる</p> <p>(1) 急激な変化をたどる対象の病態を記述する</p> <p>(2) 診療の補助・診察時に必要な援助を記述する</p> <p>(3) 救命救急に必要な医療機器の管理を記述する</p> <p>(4) 集中治療中の対象を多面的にフィジカルイグザミネーションができる</p> <p>3) 合併症を予防し、回復促進の為の援助ができる</p> <p>(1) 合併症を予測し、発症の高い合併症予防の援助を実施する。</p> <p>(2) 早期回復に向けての援助を実施する</p> <p>(3) 侵襲的治療を受ける対象の安全・安楽・自立を支える援助を実施する</p> <p>4) 病状に伴う苦痛や症状緩和の援助ができる</p> <p>(1) 身体的苦痛に対する援助ができる</p> <p>(2) 精神的苦痛に対する援助ができる</p> <p>5) 回復段階に合わせた日常生活自立のための援助ができる</p> <p>(1) 予測される機能障害が日常生活へ及ぼす影響と看護を記述する</p> <p>(2) 社会復帰に向け、再発防止に向けた指導ができる</p> <p>(3) 退院後の生活を考慮した社会資源の活用を記述する</p> <p>6) 家族の状況に応じた看護を理解する</p> <p>(1) 対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述する</p> <p>(2) 家族の混乱や不安への関わりを記述する</p> <p>(3) 対象と家族の交流に対する援助を記述する</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	経過別看護 (慢性期にある対象の看護)	対象学年・時期	2年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	成人または老年の対象を受け持ち、疾病や障害を持ちながら生活する慢性期の対象の看護を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>慢性の経過をたどる対象の病との共存を支えるための看護ができる</p> <p>1) 慢性の経過をたどる健康障害が、対象の身体的・精神的・社会的側面に及ぼす影響を理解する</p> <p>(1) 対象の病態(器質的・機能的変化)を解剖生理の知識に基づき記述(説明)する</p> <p>(2) 疾患・症状に対して行われる検査・処置の目的・方法を記述(説明)する</p> <p>(3) 疾患・症状に対して行われる治療の目的・方法を記述(説明)する</p> <p>(4) 疾患・治療・入院が対象の精神面に及ぼす影響を記述(説明)する</p> <p>(5) 疾患・治療・入院が対象の社会面に及ぼす影響を記述(説明)する</p> <p>2) 健康を維持していく上で必要なセルフケア行動獲得の支援ができる</p> <p>(1) 対象の健康状態についての経過を記述(説明)する</p> <p>(2) 対象が疾患・治療・入院をどのように受け止め対処しているのか記述(説明)する</p> <p>(3) 健康障害が日常生活に及ぼす影響について記述(説明)する</p> <p>(4) セルフケア行動獲得に必要な情報を記述する</p> <p>(5) 対象のセルフケア能力に合わせた援助を実施する</p> <p>3) 生活の場に合った療養行動を取り、合併症や急性増悪を予防するための支援ができる</p> <p>(1) 予測される合併症とその予防について記述(説明)する</p> <p>(2) 症状の変化を早期発見し、合併症予防の援助を実施する</p> <p>(3) セルフマネジメント(自己管理)に向けた教育的な関わりを実施する</p> <p>4) 地域で自立した生活を送る為に必要な医療施設と地域の保健医療福祉サービスの連携を理解する</p> <p>(1) 対象と家族に必要な社会資源を退院後の生活を見据えて記述(説明)する</p> <p>(2) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述(説明)する</p> <p>5) 家族状況に応じた援助を理解する</p> <p>(1) 慢性の経過をたどる対象の健康問題が家族に及ぼす影響を記述する</p> <p>(2) 対象と家族に必要な社会資源の活用について指導内容を記述(説明)する</p> <p>6) 看護学生としての責任を果たし、対象を尊重した態度で接する</p> <p>(1) 自分の役割を自覚し、責任ある行動がとれる</p> <p>(2) 実習目標の到達に向け、主体的に学習に取り組む</p> <p>(3) チームの一員として適切な人間関係を持つ</p>		
評価方法	評価表による評価		

授業科目	経過別看護 (終末期にある対象の看護)	対象学年・時期	3年生・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	回復の見込みがなく、積極的な治療を行わずにQOLの向上を目指している対象の看護を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 近い将来死を免れない状況にある対象の身体的・精神的・社会的・霊的側面を理解することができる。</p> <p>(1) 疾患・入院・治療に伴う対象の身体的変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(2) 疾患に伴う検査・処置の目的・方法や、治療方法について記述(説明)できる。</p> <p>(3) 疾患・入院・治療による対象の精神面の変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 疾患・入院・治療による対象の社会的役割の変化が日常生活に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>(5) 病態が霊的側面に及ぼす影響を記述(説明)できる。</p> <p>2) 終末期にある対象の希望と安全性を配慮した日常生活の援助が理解できる。</p> <p>(1) 対象が疾患・入院・治療をどのように受け止め対処しているのか記述(説明)できる。</p> <p>(2) 対象の状態を考慮し、安全性・安楽性を配慮した援助ができる。</p> <p>(3) 対象のその人らしさを考えたQOLの維持に向けた支援が実施できる。</p> <p>3) 終末期にある対象の価値観を尊重し、苦痛を緩和する為の援助ができる。</p> <p>(1) 対象の価値観、信念、想いを傾聴する姿勢を示すことができる。</p> <p>(2) 終末期における患者の症状および苦痛を和らげる援助の方法を記述(説明)、または一部実施できる。</p> <p>(3) 疼痛コントロールのための薬物療法を安全かつ効果的に行う方法を記述(説明)できる。</p> <p>(4) 終末期における患者がその人らしく過ごせる緩和ケアについて考察できる。</p> <p>(5) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述(説明)できる。</p> <p>4) 家族の状況に応じた援助が理解できる。</p> <p>(1) 終末期における患者の家族のニード充足への関わりについて考察できる。</p> <p>(2) 対象自身または家族が意思決定を行うための支援方法を記述(説明)できる。</p> <p>(3) デスカンファレンスの必要性について記述(説明)できる。</p> <p>5) 終末期にある対象の尊厳・権利の尊重に基づく、看護の専門職者としての倫理的態度を習得する</p> <p>(1) 終末期看護について自己の考えを表現できる。</p> <p>(2) 看護の専門職者として信頼を得るための、責任ある行動がとれる。</p> <p>(3) よりよい看護を実践するために、主体的な学習ができる。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係を持つことができる。</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 小児看護学 】

授業科目	小児看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 小児期にある対象を理解する 2. 小児看護の役割・機能を理解する 3. 母子保健、小児保健のあり方について理解する 4. 子どもの権利を保障することの必要性について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	1. 小児看護の対象	1) 小児看護の対象 (1) 発達からみた小児の区分 (2) 子どもの特徴 (3) 子どもと家族	講義	
2回	2. 小児看護の役割	2) 小児看護の役割 (1) 小児看護の目標 (2) 成長発達の支援 (3) 家族を含めた支援 3) 健康の保持・増進のための看護の場と活動 (1) 小児看護の場と看護の特徴	講義	
3回	3. 小児医療・小児看護の変遷	1) 小児医療・小児看護の変遷 (1) わが国における小児医療の歴史 (2) わが国における小児看護の歴史 (3) 小児看護・医療の課題と展望	講義	
4回 5回	4. 母子保健と小児保健	1) 小児の保健統計 (1) 出生と家族にかかわる統計 (2) 小児の死亡にかかわる統計 2) 母子保健の動向 (1) 母子保健と子育て支援	講義	
6回	6. 子どもの人権と看護	1) 医療現場で起こりやすい問題点 (1) 小児医療現場での意思決定の現状 (2) 子どもの意思決定・自己決定権 2) 子どもをとりまく社会の変化 (1) 子どもをとりまく社会問題 (2) 小児看護・医療にかかわる法律・制度	講義	
7回		3) 子どもの権利に関わる法規 (1) 子どもの権利条約の特徴と基本的な考え方 4) アドボカシー (1) 子どもの意思決定支援 (2) 親の意思決定支援 (3) 成長発達を支援する多職種協働という視点	講義	
評価方法	筆記試験			

テキスト	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健 小児看護学①(メヂカルフレンド社)
参考文献	系統看護学講座 専門Ⅱ 小児看護学概論 小児臨床看護総論 小児看護学②(医学書院)

【小児看護学概論】

自己学習時間	30 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、小児看護の理解を深める
--------	-------	---------	-----------------------

授業科目	子どもの成長・発達に応じた看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 子どもの成長発達について理解する 2. 子どもの成長・発達段階に応じた健康増進の看護について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回 2回 3回 4回	1. 子どもの成長・発達	1) 成長・発達の概念 ・成長・発達とは ・成長・発達の原則 ・成長・発達の評価 2) 形態的成長・発達 3) 機能的発達 ・反射 ・粗大運動と微細運動 ・言語・視力・聴力 4) 心理・社会的発達 ・認知・思考・情緒・自己概念 ・社会性の発達 ・基本的生活習慣 ・小児看護における概念と理論 5) 性の発達 6) 子どもの発達課題	講義	
5回 6回 7回	2. 健康増進のための看護: 新生児期・乳児期	1) 新生児期・乳児期の健康増進のための看護 (1) 新生児・乳児期の特徴 ・形態的特徴・身体生理的特徴・機能的特徴 (2) 養育および看護 ・日常生活の世話・栄養・遊びの支援 (3) 感染予防と予防接種 (4) 新生児・乳児の子どもをもつ家族への看護	講義	
8回 9回	3. 健康増進のための看護: 幼児期	2) 幼児期の健康増進のための看護 (1) 幼児期の特徴 ・形態的特徴・身体生理的特徴・機能的特徴 (2) 養育および看護 ・基本的生活習慣の確立と世話・遊びの支援 (3) 感染予防と予防接種 (4) 幼児期の子どもをもつ家族への看護	講義	
10回 11回	4. 健康増進のための看護: 学童期	3) 学童期の健康増進のための看護 (1) 学童期の特徴 ・形態的特徴・身体生理的特徴・機能的特徴 (2) 学童をとりまく環境 (3) 養育および看護 ・生活習慣病の予防・疾病予防・学習と遊びの支援・食生活と食育 (4) 学校感染症の予防 (5) 仲間との関係や学校への適応 (6) 学童期の子どもをもつ家族への看護	講義	

12回	5. 健康増進のための看護:思春期	4) 思春期の健康増進のための看護 (1) 思春期・青年期の特徴 ・形態的特徴・身体生理的特徴・機能的特徴 (2) 生活の特徴 (3) 養育および看護 ・心理社会的適応に関する問題 ・反社会的・逸脱行動 ・心の発達への援助 ・性教育	講義
13回	6. 子どもに起こりやすい事故とその予防	1) 子どもの行動の特徴と子どもの事故・外傷 2) 発達段階に合わせた事故防止策	講義
14回	7. 子どもに合わせた遊びの援助	1) 子どもの発達段階と遊びの特徴 2) 発達段階に合わせた遊びの援助	講義 演習
15回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験 演習参加状況		
テキスト	新体系看護学全書 小児看護学概論/小児保健 小児看護学①(メヂカルフレンド社)		
参考文献			

【子どもの成長・発達に応じた看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、小児看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	健康障害のある子どもの看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	13
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 健康障害が子どもや家族へ与える影響が理解でき、その援助方法について理解する 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子ども及び家族への看護の方法を理解する 3. さまざまな状況にある健康障害を起こした子ども及び家族への援助について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	3. 経過・症状に応じた子どもと家族の看護①	1) 急性期にある子どもと家族の看護 (1) 急性期にある子どもの特徴 (2) 急性状態が子どもに与える影響 (3) 急性症状に対する看護 痛み・発熱・嘔吐・下痢・脱水 など		講義
3回	4. 経過・症状に応じた子どもと家族の看護②	2) 慢性的な疾患・障害がある子どもと家族の看護 (1) 慢性的な経過をたどる疾患の特徴と治療 (2) 慢性状態が子どもに与える影響(各発達段階) (3) 疾患による子どもと家族の生活の変化		講義
4回 5回		(4) 在宅・地域で医療的ケアを必要とする子どもと家族の看護 医療的ケア: 経管栄養法・気管切開・酸素療法 人工呼吸器療法・自己導尿など (5) 成人期への移行を目指した支援 疾患: 1型糖尿病・心疾患・腎疾患・脳性麻痺など		講義
6回	5. 経過・症状に応じた子どもと家族の看護③	3) 終末期にある子どもと家族の看護 (1) 子どもの終末期の特徴 (2) 子どもの発達段階別の生命・死の捉え方 (3) 子どもの体験している症状の緩和 (4) 子どもと親の意思決定に向けての支援 (5) 子どもを亡くした家族へのケア		講義
	6. 経過・症状に応じた子どもと家族の看護④	4) 外来における子どもと家族の看護 (1) 外来の特徴と看護の役割 (2) 外来を受診する子どもと家族の特徴と看護		講義
7回	まとめ／終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学②(メヂカルフレンド社)			
参考文献				

【健康障害のある子どもの看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、小児看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	健康障害のある子どもの看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	12
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 健康障害が子どもや家族へ与える影響が理解でき、その援助方法について理解する 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子ども及び家族への看護の方法を理解する 3. さまざまな状況にある健康障害を起こした子ども及び家族への援助について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 健康障害をもつ子どもと家族の特徴①	1) 病気や入院が子どもに与える影響と看護 (1) 各発達段階における病気・障害の理解と反応 (2) 発達に応じた病気の説明・インフォームドアセント 2) 病気や入院が家族に及ぼす影響と看護 (1) 子どもの病気・障害に対する家族の反応		講義
2回 3回	2. 健康障害をもつ子どもと家族の特徴②	3) 健康問題をもつ子どもと家族の看護の方向性 4) 発達段階に応じた看護(代表的な疾患) ・乳児期－肺炎・熱性けいれん ・幼児期－川崎病・喘息 ・学童期－白血病 ・思春期・青年期－起立性調節障害・骨折		講義
4回	7. 特別な状況にある子どもと家族の看護①	1) 隔離を要する子どもと家族の看護 2) 活動制限を受ける子どもと家族の看護 (1) 隔離・活動制限の目的と方法 (2) 隔離・活動制限による身体的・社会的影響 (3) 発達に応じた日常生活への援助と家族への支援 3) 検査・処置を受ける子どもと家族のへの看護 ・子どもへの説明と同意 ・プレパレーション ・与薬・採血・輸液・呼吸症状の緩和・穿刺など		講義
5回	8. 特別な状況にある子どもと家族の看護②	4) 手術を受ける子どもと家族の看護 (1) 小児期の手術の特徴 (2) 手術が子どもに与える影響 (3) 手術を受ける子どもの家族の反応 (4) 手術前・中・後の看護 (5) 退院に向けての支援		講義
6回	11. 特別な状況にある子どもと家族の看護⑤	8) 虐待を受けている子どもの看護 (1) 子どもへの虐待の特徴と現状 (2) 虐待のリスク要因と早期発見 (妊娠期・乳幼児期・学童期) (3) 虐待を受けた子どもに対するケア 9) 災害を受けた子どもの看護 (1) 災害による子どもへの影響 (2) 災害に遭遇した子どもと家族への援助		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学②(メヂカルフレンド社)			
参考文献				

【健康障害のある子どもの看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、小児看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	健康障害のある子どもの看護		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	4
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 健康障害が子どもや家族へ与える影響が理解でき、その援助方法について理解する 2. 子どもに起こりやすい健康障害を理解し、子ども及び家族への看護の方法を理解する 3. さまざまな状況にある健康障害を起こした子ども及び家族への援助について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回	9. 特別な状況にある子どもと家族の看護③	5) 健康障害をもつ新生児と家族の看護 (1) ハイリスク新生児の特徴と要因 (2) 集中治療における援助 (3) 親子・家族関係確立への支援と長期フォローアップ 6) 先天異常をもつ子どもと家族の看護 (1) 先天異常の種類と特徴 (2) 発達段階に応じた援助 (3) 養育とケア技術指導に関する家族への援助と生活調整への支援	講義	
2回	10. 特別な状況にある子どもと家族の看護④	7) 重症心身障害児と家族の看護 (1) 心身障害の定義と種類 (2) 障害のある子どもと家族の特徴 (3) 障害のある子どもの発達段階に応じた看護 (4) 障害のある子どもと家族の社会的支援	講義	
評価方法	筆記試験			
テキスト	新体系看護学全書 健康障害をもつ小児の看護 小児看護学②(メヂカルフレンド社)			
参考文献				

【健康障害のある子どもの看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、小児看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	小児看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 子どもの成長・発達についてアセスメントできる 2. 病気や入院が子どもや家族に与える影響とその看護を理解する 3. 子どもに対する基本的看護技術の習得ができる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護①	1) 病気や入院が子どもに与える影響 2) 子どもの病気の理解と受容 3) 子どもにあった入院環境 4) 入院適応に向けての看護		講義
2回	1. 病気や入院が子どもと家族に与える影響とその看護② 2. 発育・発達の評価	1) 子どものアセスメントの視点について 2) 情報の整理【事例】(2事例) (1) 病気や入院が子どもに与える影響のアセスメント (2) 健康障害をもつ小児の身体発育・機能的発達・心理社会的発達のアセスメント		講義 演習
3～4回		3) 情報の整理と分析【事例】		演習
5～6回		4) 関連図・看護問題の明確化【事例】 5) 看護計画立案【事例】		演習
7～9回	3. 小児看護に必要な技術	1) コミュニケーション技術 (1) 発達段階に応じたコミュニケーションの特徴 (2) 言語・非言語を含めたコミュニケーションの方法 2) 発達に応じた説明と同意 (1) 検査を受ける小児へのプレパレーション 3) 遊びへの援助 (1) 発達段階や安静度に応じた遊び		演習
10～11回		2) 小児のフィジカルアセスメント (1) バイタルサイン測定 (2) 身体測定		演習
12～14回		4) 診療に伴う援助技術 (1) 小児の与薬(内服・座薬・吸入) (2) 吸引 (3) 採血 (4) 採尿 (5) 酸素療法 (6) 点滴		演習 *アクティブラーニング
15回		7) 成長・発達に応じた子どもの安全管理 (1) 小児用ベッドの安全 (2) KYTシート		講義
評価方法	演習課題 演習参加状況			
テキスト	新体系看護学全書 小児看護学① 小児看護学概論／小児保健 (メヂカルフレンド社) 新体系看護学全書 小児看護学② 健康障害をもつ小児の看護 (メヂカルフレンド社)			
参考文献	写真でわかる小児看護技術(インターメディカ)			

【小児看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で事前学習、事後学習を行い、小児看護の理解を深める
--------	------	---------	--------------------------------

授業科目	小児看護学実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	1. 小児の身体的・精神的・社会的な成長・発達の実際を理解する 2. 基本的な生活習慣の自立に応じた児への関わり方を理解する 3. 保育施設と家庭との連携の実際を理解する 4. 保育所で行われている安全管理・健康管理を理解する 5. 健康障害を持つ子どもとその家族の特性を理解する 6. 健康障害を持つ子どもに必要な看護援助を発達段階との関連で考えることができる 7. 子どもと親の双方の健康問題を明確化し、発達段階に合わせて援助できる 8. 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護師の役割を理解する 9. 小児看護にかかわる専門職としての基本的姿勢や倫理的態度を習得する		
	実習目標及び内容		
	保育所実習 1) 小児が生活する保育環境を理解する (1) 保育所の日常の流れと、安全・健康管理状況について記述する (2) 保育所と家庭の連携について記述する 2) 小児の成長・発達状況を理解する (1) 乳幼児期の各年齢における身体的・精神的・社会的な成長・発達について記述する 3) 基本的な生活習慣の獲得状況を理解し自立に向けて支援する (1) 乳幼児期の各年齢における基本的な生活習慣について記述する (2) 乳幼児の成長発達に応じた日常生活行動自立のための保育に参加する 4) 成長・発達に応じた小児との接し方を工夫し乳幼児と接することができる (1) 乳幼児とのかかわり方、コミュニケーションを工夫し接する (2) 乳幼児の意思および考えを尊重する (3) 乳幼児の成長・発達に応じた遊びの環境づくりと援助を実施する (4) 子どもにとっての遊びの意味を考察する 5) 保育所における小児への安全面の配慮が理解できる (1) 乳幼児の成長・発達に応じた事故防止について記述する		
評価方法			

授業科目	小児看護学実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的			
	実習目標及び内容		
	<p>病棟実習</p> <p>1) 健康障害のある小児とその家族について理解できる</p> <p>(1) 受持ち児の身体的・精神的・社会的側面の成長発達段階について記述(説明)する</p> <p>(2) 受持ち児の日常生活行動について記述(説明)する</p> <p>(3) 受持ち児の病態を器質的・機能的に記述(説明)する</p> <p>(4) 受持ち児の疾患にともなう治療・検査・処置の目的・方法を記述(説明)する</p> <p>(5) 入院や病気が受持ち児と家族に及ぼす影響について記述(説明)する</p> <p>2) 対象の健康状態や成長・発達を考慮した日常生活援助を実践する</p> <p>(1) 受持ち児の望ましい状態を考え、看護問題を抽出する</p> <p>(2) 受持ち児の成長発達を踏まえた具体策を立案する</p> <p>(3) 受持ち児の発達段階を踏まえて、安全・安楽・自立を考慮した援助を実施する</p> <p>(4) 受持ち児に合わせたバイタルサイン測定を実施する</p> <p>(5) 受持ち児への説明・プレパレーションを実施する</p> <p>(6) 診療に伴う看護技術を実施する</p> <p>3) 小児の安全・安楽を守るための援助を実践する</p> <p>(1) 受持ち児の事故防止を実施する</p> <p>(2) 小児病棟における感染予防対策に基づいた行動がとれる</p> <p>4) 小児看護における保健・医療・福祉の連携と看護が理解できる</p> <p>(1) 受持ち児・家族への保健指導の必要性を記述(説明)する</p> <p>(2) 子どもを虐待から守るための援助の必要性について考察する</p> <p>5) 子どもを尊重した看護が理解できる</p> <p>(1) 子どもを尊重し、誠実な態度で関わる</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 母性看護学 】

授業科目	母性看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 母性看護の概念が理解できる 2. 母性に関する法律について理解できる 3. 人間の性と生殖について理解できる 4. ライフサイクル各期における女性の健康について理解できる			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態	
1回 2回 3回 4回	1. 母性看護の基盤となる概念	1) 母性とは 2) 母子関係と家族発達 3) セクシュアリティ(人間の性) 4) リプロダクティブヘルス/ライツ 5) ヘルスプロモーション	*アクティブラーニング 講義	
5回 6回	2. 母性看護の対象理解	1) 女性のライフサイクルにおける形態・機能の変化 2) 性周期における変化 3) 母性の発達・成熟・継承	講義	
7回	3. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状	1) 母性看護の歴史的変遷と現状 (1) 母性看護の歴史 (2) 母子保健統計 (3) 母性看護にかかわる法律 2) 母性看護の提供システム (1) 周産期医療 (2) 子育て支援	講義	
8回	4. 女性のライフステージ各期の理解	1) 思春期・成熟期・更年期・老年期の身体的・心理的・社会的特徴 2) 起こりやすい健康問題	講義	
9回	5. リプロダクティブヘルス・ケア	1) 家族計画 2) 性感染症 3) HIV 4) 人工妊娠中絶 5) 喫煙 6) 性暴力 7) DV 8) 児童虐待 9) 母子保健の国際化	講義	
10回 11回 12回	6. ライフステージ各期における看護	女性のライフステージ各期において起こりうる問題に対する看護、リプロダクティブヘルス・ケアについて考える	グループワーク	
13回 14回	7. 母性看護における倫理	1) 母性看護における倫理的問題 (1) 生命倫理・看護倫理 (2) 倫理的意思決定	講義 グループワーク	
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	課題および筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①(医学書院)			
参考文献				

【母性看護学概論】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、母性看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (妊娠)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 妊娠期の身体・心理・社会的特徴	1) 妊娠の生理 2) 胎児の発育とその生理 3) 母体の生理的变化 4) 妊婦の心理 5) 妊娠による不快症状(マイナートラブル) 6) 妊婦と家族および社会		講義
2回	2. 妊婦と胎児のアセスメント	1) 妊娠とその診断 2) 妊娠週数による変化 3) 妊娠期に行う検査とその目的 (1) 妊婦健康診査時の援助 4) 胎児の発育と健康状態の評価		講義
3回 4回		1) 基礎的情報のアセスメント 2) 日常生活に関するアセスメント (1) 妊婦の日常生活とセルフケア (2) 食事・栄養 (3) 排泄 (4) 活動・休息 (5) 清潔 (6) 嗜好品 (7) 性生活		講義
5回	3. 妊婦と家族の看護	1) 妊婦が受ける母子保健サービス (1) 妊娠の届け出と母子健康手帳 2) 妊婦の健康相談・教育の実際 (1) 妊娠期の健康管理に関する教育 3) 親になるための準備教育 (1) 出産準備教育、育児準備教育		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (分娩)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 分娩の要素	1) 分娩とは 2) 分娩の3要素 3) 胎児と子宮及び骨盤との関係 4) 分娩の機序		講義
2回	2. 分娩の経過	1) 分娩の進行と産婦の身体的変化 2) 産痛 3) 分娩が胎児に及ぼす影響 4) 産婦の心理・社会的変化		講義
3回	3. 産婦・胎児・家族のアセスメント	1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント 2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント		講義
4回	4. 産婦と家族の看護	1) 看護目標と産婦のニーズ 2) 安全・安楽な分娩への看護 3) 出産体験が肯定的になるための看護 4) 基本的ニーズに関する看護 5) 家族への看護		講義
5回	5. 分娩期の看護の実際	1) 分娩第1期～第4期の看護 (1) 産痛緩和 (2) 呼吸法 (3) マッサージ 2) 無痛分娩と看護		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護 (産褥・新生児)		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	9
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 周産期にある対象の健康の保持・増進に向けた看護について理解する 2. 周産期における心身の特徴について理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 産褥経過	1)産褥期の身体的変化 (1)退行性変化 (2)進行性変化 2)産褥期の心理・社会的変化 (1)マタニティブルーズ (2)愛着形成		講義
	2. 褥婦の アセスメント	1)産褥経過の診断 2)褥婦の健康状態のアセスメント		
2回	3. 褥婦と家族の 看護	1)身体機能の回復および進行性変化への看護 (1)セルフケア不足に対する看護 (2)退行性変化・進行性変化への看護 (3)セルフケア能力を高める看護 2)児との関係確立への看護 3)育児にかかわる看護 (1)授乳 (2)児の清潔 (3)児の健康管理 4)家族関係再構築への看護 (1)きょうだいへの対応 (2)夫(パートナー)への対応		講義
	4. 退院後の看護	1)産後の生活調整 2)育児不安への支援 3)産後の健康診査と子育て支援 4)職場復帰		
3回 4回	5. 新生児の アセスメント	1)新生児の生理・機能 (1)体格・姿勢 (2)子宮外適応現象 (3)呼吸・循環・体温・消化・吸収・腎機能 代謝(生理的黄疸)・免疫・皮膚・反射・感覚機能		講義
	5. 新生児の看護	1)出生直後の看護 2)出生後から退院時までの看護 3)生後1か月健診に向けた退院時の看護		
5回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

【妊産褥婦の健康の保持・増進に向けた看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、母性看護の理解を深める
--------	------	---------	-----------------------

授業科目	ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	医師		講義時間	10
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. ハイリスクな状況にある人の看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 出生前 2. ハイリスク妊娠と看護	1) 不妊治療 2) 出生前診断 1) ハイリスク妊婦の看護 (1) 高年妊婦 (2) 若年妊婦 (3) 生殖補助医療後の妊婦 (4) 合併症を有する妊婦 2) 妊娠期の感染症を有する妊婦の看護 3) 妊娠疾患を有する妊婦の看護 (1) 妊娠悪阻の妊婦 (2) 妊娠高血圧症候群の妊婦 4) 多胎妊娠の妊婦の看護 5) 妊娠持続期間の異常を有する妊婦の看護 (1) 流産 (2) 早産・切迫早産 6) 異所性妊娠の妊婦の看護		講義
2回 3回	2. ハイリスク分娩と看護	1) 破水を生じた産婦の看護 2) 分娩遷延のリスクのある産婦の看護 3) 胎児機能不全を生じるリスクのある産婦の看護 4) 帝王切開術を受ける産婦の看護 5) 骨盤位分娩時の看護 6) 急速遂娩を受ける産婦の看護 7) 分娩時異常出血のある産婦の看護		講義
4回	3. ハイリスク産褥と看護	1) 子宮復古不全の褥婦の看護 2) 産褥期の発熱がある褥婦の看護 3) 産褥血栓症を有する褥婦の看護 4) 産褥期精神障害を有する褥婦の看護 5) 母子分離時の看護 6) 帝王切開術後の看護 7) 育児に困難感をかかえる褥婦への看護 8) メンタルヘルスの問題を抱える褥婦の看護 8) 児を亡くした褥婦・家族の看護		講義
5回	4. ハイリスク新生児を持った褥婦の看護	1) 新生児仮死を生じた新生児の看護 2) 分娩外傷を生じた新生児の看護 3) 低出生体重児である新生児の看護 4) 高ビリルビン血症を生じた新生児の看護 5) 新生児・乳児ビタミンK欠乏症を生じた児の看護 6) 低血糖を生じた新生児の看護		講義
6回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	4
			テスト時間	試験別
学習目標	1. ハイリスクな状況にある人の看護を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. ハイリスク分娩	1)産道の異常 2)娩出力の異常 3)胎児の異常による分娩障害 4)胎児の付属物の異常 5)胎児機能不全 6)分娩時の損傷 7)分娩3期および分娩直後の異常 8)分娩時異常出血		
2回	2. 産科処置と産科手術	1)分娩誘発 2)会陰切開術 2)帝王切開術 など		
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献				

【ハイリスクな状況にある妊産褥婦の看護】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	テキストでハイリスクにある状況になる妊産褥婦の理解を深める
--------	------	---------	-------------------------------

授業科目	母性看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 母性の対象となる人々の健康の保持・増進に向けた支援について理解する 2. 母性看護に必要な援助技術が習得できる			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 母性看護における看護過程	1) ウェルネス看護診断の考え方 2) 母性看護における対象理解の視点		*アクティブラーニング 講義
2回	2. 妊娠期における看護過程	1) 妊娠期のアセスメントの視点 2) 看護診断と看護目標、看護計画		講義 個人ワーク
3回	3. 妊娠期の援助	1) レオポルド触診法 2) 児心音聴取 3) 子宮底・腹囲測定		演習(実習室)
4回	4. 分娩期における看護過程	1) 分娩各期に応じたアセスメント 2) 看護診断と看護目標、看護計画		講義 個人ワーク
5回	5. 褥婦における看護過程	1) 産褥日数に応じたアセスメント 2) 看護診断と看護目標、看護計画		講義 個人ワーク
6回	6. 帝王切開術による分娩の看護	1) 術前・中・後の看護		講義 個人ワーク
7回	7. 退行性変化の観察	1) 産褥日数による子宮復古の変化と観察の実際 2) 子宮復古を促す援助		演習(実習室)
	8. 授乳手技獲得への看護	1) 乳房の観察、抱き方、含ませ方の実際 2) 乳汁分泌促進への援助		
8回	9. 新生児期における看護過程	1) 新生児期のアセスメントの視点 2) 看護診断と看護目標、看護計画		講義 個人ワーク
9回				
10回	10. 新生児の援助技術	1) 新生児のバイタルサイン測定 2) 沐浴、臍処置、更衣、おむつ交換 3) 新生児の抱き方、寝かせ方、瓶哺乳、排気		演習(実習室)
11回				
12回	11. 女性生殖器疾患をもつ患者の看護	1) 子宮筋腫 2) 子宮がん 3) 卵巣がん 4) 骨盤臓器脱		講義 個人ワーク
13回	12. 母性看護(産褥期)における指導技術	1) 産褥期に必要な保健指導		グループワーク 発表(実習室)
14回		(1) 指導内容の選定 (2) 指導計画立案 (3) 発表		
15回				
評価方法	課題評価(看護過程・演習課題)			
テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論 母性看護学①(医学書院) 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学各論 母性看護学②(医学書院)			
参考文献	ウェルネスからみた母性看護過程 第3版(医学書院) ウェルネス看護診断にもとづく母性看護過程 第3版(医歯薬出版)			

【母性看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む
--------	------	---------	-----------

授業科目	母性看護学実習	対象学年・時期	3年次・前期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	周産期及びライフサイクル各期にある女性とその家族への健康の保持・増進に向けた看護を実践する基礎について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1. 周産期にある母子の特徴を理解し、必要な援助が実施できる</p> <p>1) 妊娠期の正常な経過とその特徴、妊婦への援助を理解できる</p> <p>(1) 妊娠期の正常な経過と妊婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 妊娠各期に必要な援助を述べることができる</p> <p>2) 分娩期の正常な経過とその特徴、産婦への援助を理解できる</p> <p>(1) 分娩各期の正常な経過と産婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 分娩各期に必要な援助を述べることができる</p> <p>3) 産褥期の正常な経過とその特徴を理解し、褥婦への援助が実施できる</p> <p>(1) 産褥期の正常な経過と褥婦の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 褥婦の身体的変化をとらえ、状態に応じた援助計画を立案することができる</p> <p>(3) 退行性変化を促進するための援助ができる</p> <p>(4) 進行性変化を促進するための援助ができる</p> <p>(5) 育児技術習得を促進するための援助ができる</p> <p>(6) 母子の愛着形成を促進するための援助ができる</p> <p>4) 新生児の特徴を理解し、新生児が健康を維持・促進するための援助が実施できる</p> <p>(1) 新生児期の正常な経過と新生児の特徴を述べることができる</p> <p>(2) 新生児の胎外生活適応過程における身体的変化をとらえ、状態に応じた援助計画を立案することができる</p> <p>(3) 新生児の成長・発達を促進するための援助ができる</p> <p>(4) 感染予防・事故防止するための援助ができる</p> <p>5) 周産期に活用できる包括的支援を理解できる</p> <p>(1) 母子の健康を保持・増進するための支援を述べることができる</p> <p>2. 女性生殖器に健康障害を持つ対象の治療及び療養生活を理解し、必要な看護が考えられる</p> <p>1) 疾患及び治療・検査が対象の日常生活に及ぼす影響を理解することができる</p> <p>(1) 女性生殖器に健康問題を持つ対象の疾患及び治療・検査が日常生活に及ぼす影響を述べることができる</p> <p>2) 疾患及び治療・検査が精神面・社会面に及ぼす影響を理解することができる</p> <p>(1) 女性生殖器に健康問題を持つ対象の疾患及び治療・検査が、対象の精神面・社会面に及ぼす影響を述べることができる</p> <p>3) その人らしい暮らしに向けた支援を理解することができる</p> <p>(1) 各ライフサイクルにおける女性の健康問題と、健康を守るために必要な支援について自己の考えを述べることができる</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 精神看護学 】

授業科目	精神看護学概論		対象学年・時期	1年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 精神看護の変遷を知り、精神看護学の概念を理解する 2. ライフサイクルと精神の発達危機について理解する 3. 精神看護の対象及び看護の目的を理解する 4. 精神看護におけるリスクマネジメントを理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 精神科看護から精神看護へ	1)精神看護学の基本的な考え方 2)精神障害という考え方		講義
2回	2. 精神看護学に影響を及ぼす諸モデル	1)心のしくみと人格の発達 2)心身の健康に及ぼすストレスの影響 (1)医学モデル(2)精神分析モデル(3)対人関係モデル(4)危機予防モデル(5)看護モデル		講義
3回 4回	3. 精神の健康を理解するための諸概念	1)ライフサイクルとアイデンティティ 2)愛着理論 3)認知発達理論 4)ライフサイクルと精神看護の課題		講義
5回	4. 精神の健康に及ぼす因子	1)生物学的因子:遺伝、生化学物質 2)物理的環境因子:ホスピタリズム 3)心理社会的因子:家族、ソーシャルサポート 4)社会構造因子:スティグマ、文化		講義
6回 7回	5. 生活の場と精神保健	1)精神保健の考え方 2)精神保健における予防概念 3)リカバリーを支える力		講義
8回 9回	6. 地域における精神保健活動	1)地域生活を支えるシステムと社会資源 2)地域におけるケアの方法と実際 3)災害時における精神保健活動		講義
10回 11回	7. 精神保健福祉制度	1)精神医療の歴史 2)精神障害と法制度		講義
12回 13回	8. 看護の対象及び看護師の役割	1)精神科での治療の特徴 2)倫理と人権擁護 3)リスクマネジメントの考え方 4)リスクマネジメントの実際		講義
14回	9. リエゾン精神看護	1)リエゾン精神看護の歴史 2)リエゾンナースの活動の実際		講義
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	ミニテスト、課題レポート、筆記試験			

テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)
参考文献	

【精神看護学概論】

自己学習時間	15 時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める ニュースや新聞等の精神疾患について興味関心をもつ
--------	-------	---------	---

授業科目	精神看護援助技法		対象学年・時期	2年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	15
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 精神看護の基本技法を学び、対象理解及び援助に必要な働きかけ方を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 精神障害をもつ人との関わり方	1)精神障害者の理解と考え方 2)「患者-看護師」関係の理解 3)関係構築に向けての基本的な態度		講義
2回	2. 精神障害をもつ人とのコミュニケーション	1)コミュニケーションの種類と特徴 2)精神障害をもつ人とのコミュニケーションの特徴 3)接近・接触技法		講義 演習
3回 4回	3. 精神障害をもつ人との関係の振り返り	1)振り返ることの意味 2)プロセスレコード		講義 演習
5回 6回	4. 回復を支えるプログラム	1)社会生活技能訓練(SST) 2)認知行動療法		講義 演習
7回 8回	5. 患者家族の理解とその援助	1)患者家族の心理 2)家族の負担 3)家族が危機を乗り越えるための援助		講義
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神看護援助技法】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める 積極的に演習に参加できるよう事前に演習内容を理解する
--------	------	---------	---

授業科目	精神障害のある対象の看護		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	29
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 診察・検査治療を受ける対象に必要な看護を理解する 2. 障害をもちながら生活する対象に必要な支援方法を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回 2回	1. 主な症状に対する看護	1) 精神症状と看護 (1) 統合失調症 (2) 妄想性障害 (3) 気分(感情)障害		講義
3回 4回		2) 神経症状と看護 (1) 不安障害 (2) 強迫性障害 (3) 適応障害 (4) 解離性障害		講義
5回 6回		3) 生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 (1) 摂食障害 (2) 睡眠障害 (3) 性同一性障害 (4) パーソナリティ障害 (5) アルコール症 (6) てんかん		講義
7回		4) 認知症の状態にある患者の看護		講義
8回 9回	2. 診察・検査および治療に伴う看護	1) 診察に伴う看護 2) 検査に伴う看護		講義
10回 11回		3) 薬物療法に伴う看護 4) けいれん療法を受ける患者の看護		講義
12回		5) 精神療法を受ける患者の看護 6) 社会療法を受ける患者の看護		講義
13回	3. 安全な治療環境の提供	1) 病棟環境の整備と行動制限 2) 包括的暴力防止プログラム 3) 災害時の安全確保		講義
14回	4. 精神科リハビリテーション療法を受ける患者の看護	1) 精神科リハビリテーションと地域精神保健 2) 地域におけるリハビリテーションサービス 3) 精神科リハビリテーションと今後の課題		講義
15回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神障害のある対象の看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキスト等で学習し、精神看護の理解を深める ニュースや新聞等の精神疾患について興味関心をもつ
--------	------	---------	---

授業科目	精神看護学演習		対象学年・時期	2年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 精神に障害のある対象の看護過程が展開できる 2. 対象との関りについて振り返り方法を理解する 3. レクリエーション等の企画、実施について考えられる 4. 精神看護に特有な援助技術を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 精神に障害のある対象の理解	1) 統合失調症の症状と看護		*アクティブラーニング 講義 演習
2回 3回	2. 精神に障害のある対象の看護過程の展開	1) 情報整理と分析(統合失調症の事例)		講義 演習
4回 5回		2) 看護問題の明確化(統合失調症の事例)		講義 演習
6回 7回		3) 看護計画の立案(統合失調症の事例)		講義 演習
8回 9回	3. 看護援助技法演習	1) プロセスレコード(統合失調症の事例)		講義 演習
10回 11回		2) レクリエーション・行事の計画 事例に合わせた企画書の作成		グループワーク
12回 13回		3) 社会生活技能訓練(SST) 事例に合わせて実施		グループワーク
14回 15回	4. 精神に障害のある対象の地域における生活支援	1) 事例に合わせた社会資源の活用		グループワーク
評価方法	演習課題、演習参加状況			
テキスト	系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の基礎(医学書院) 系統看護学講座 専門Ⅱ 精神看護の展開(医学書院)			
参考文献				

【精神看護学演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習課題に取り組む グループワークでは主体的に取り組めるよう事前に演習課題を理解する
--------	------	---------	---

授業科目	精神看護学実習	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	精神に障害をもつ対象の発症に至った経緯と治療経過を理解し、対象に応じた実践する基礎を学ぶ。また、対象との関りをプロセスレコードに取り、自己のコミュニケーション技法の傾向・自己洞察について学ぶ。		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 精神に障害のある対象とその家族について理解する。</p> <p>(1) 対象の病態を器質的・機能的に記述する。</p> <p>(2) 対象の疾患にともなう治療の目的・方法を記述する。</p> <p>(3) 疾患・治療・入院が対象の身体面におよぼす影響について記述する。</p> <p>(4) 疾患・治療・入院が対象の精神面におよぼす影響について記述する。</p> <p>(5) 疾患・治療・入院が対象の社会的役割におよぼす影響について記述する。</p> <p>(6) 精神障害のある患者を支える家族の現状を考察する。</p> <p>2) 看護師に必要な治療的関わりについて理解し、対象のセルフケアレベルに応じた援助が実施できる。</p> <p>(1) 対象の価値観や思いを傾聴する姿勢を示す。</p> <p>(2) 効果的なコミュニケーション技法を実施する。</p> <p>(3) 対象との発展過程段階について述べる。</p> <p>(4) 治療的コミュニケーション技法を用いて一場面を再構成する。</p> <p>(5) 精神障害をもつ対象の強みを記述する。</p> <p>(6) 精神障害が日常生活におよぼす影響を記述する。</p> <p>(7) 対象の日常生活活動に合わせた援助を実施する。</p> <p>(8) カンファレンスを通して自己の対人関係の傾向の傾向を記述(説明)する。</p> <p>(9) 精神科病棟の特殊性について記述する。</p> <p>(10) 精神科病棟の安全管理体制について記述する。</p> <p>(11) チーム医療と協働する専門職の役割、連携の必要性について記述する。</p> <p>3) 精神に障害のある対象に活用できる社会資源について理解する。</p> <p>(1) 制度や地域の現状をふまえ、社会復帰を促進するための施設の役割を記述する。</p> <p>(2) 精神障害をもつ利用者の特徴をふまえ、地域で生活する利用者の現状を記述する。</p> <p>(3) 精神障害をもつ利用者の日常生活機能の維持・向上の方法を記述する。</p> <p>(4) 精神障害をもつ利用者の生活における事故防止策について考察する。</p> <p>4) 保健医療チームの一員として、看護職者に求められる姿勢を身につける。</p> <p>(1) 看護学生としての役割を自覚した行動をとる。</p> <p>(2) 精神看護学実習の特殊性に配慮した責任ある行動をとる。</p> <p>(3) 実習目標の到達に向けて、主体的に学習に取り組む。</p> <p>(4) 医療チームの一員として適切な人間関係をもつ。</p>		
評価方法	評価表による評価		

【 看護の統合と実践 】

授業科目	看護管理		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	15
講師名	看護師		講義時間	14
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 看護の質を保証するためのマネジメントの基礎について理解する 2. 看護管理の目的と機能について理解する 3. 組織の一員としての看護師の役割や行動を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護管理とは	1)管理の概念 2)看護師の仕事とその管理		講義
2回	2. 看護ケアのマネジメント	1)看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2)安全管理 (1)安全管理のしくみ (2)医療安全対策 3)チーム医療 (1)看護職の責任と役割 (2)他職種との連携・協働 4)看護業務の実践		講義
3回 4回	3. 看護サービスのマネジメント	1)組織目的達成のマネジメント 2)看護サービス提供のしくみづくり 3)人材のマネジメント 4)施設環境・物品のマネジメント 5)情報のマネジメント 6)組織におけるリスクマネジメント 7)サービス評価		講義
5回	4. 看護職のキャリアマネジメント	1)看護職のキャリア形成		
6回	5. 看護を取り巻く諸制度	1)保健医療福祉政策と最近の傾向 2)政策・制度と看護サービス		講義
7回	6. マネジメントに必要な知識と技術	1)組織経営と倫理 2)労働管理		講義
8回	終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践① (医学書院)			
参考文献				

【看護管理】

自己学習時間	30時間	事前・事後学習	課題レポート、テキストで事前学習、事後学習をすること
--------	------	---------	----------------------------

授業科目	医療安全		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	23
			テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する 2. 安全管理の方法を理解する 3. 感染予防対策および標準予防策を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	1. 安全管理とは	1) 医療安全の定義 2) 医療安全の管理 ①システム②プロセス③リスクマネジメント		*アクティブラーニング 講義
2回 3回	2. 事故予防対策	1) 間違い防止 2) 危険の予測・評価 3) 被害拡大の防止		講義・演習
4回 5回 6回	3. 診療の補助業務に伴う事故防止 (患者に投与する業務における事故)	1) 業務特性からみた患者に投与する業務の事故 2) 注射業務と事故防止 3) 注射業務に用いる機器 4) 輸血業務と事故防止 5) 内服と薬業務と事故防止 6) 経管栄養業務と事故防止		講義・演習
	4. 診療の補助業務に伴う事故防止	1) チューブの管理		講義
7回	5. 療養上の世話における事故防止	1) 療養上の世話における2群の事故のとらえ方 2) 転倒・転落事故防止 3) 誤嚥事故防止 4) 異食事故防止 5) 入浴中の事故		講義
8回	6. 防災対策	1) 災害時初動体制 2) 災害対応マニュアル		講義
9回	7. 医療事故安全対策の展望	1) 組織としての安全対策 2) 国内外における安全対策と国際的連携		講義
10回	8. 事例に基づき事故の原因…誘因の分析	1) 事例－チームステップス		演習
11回	9. 分析の共有化	1) 演習の発表		演習
12回	まとめ/終講試験			
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践②(医学書院)			
参考文献				

授業科目	医療安全		対象学年・時期	3年次・前期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師		講義時間	6
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 医療における安全管理の必要性を理解する 2. 安全管理の方法を理解する 3. 感染予防対策および標準予防策を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態及び教室
1回	1. 感染防止の技術	1) 感染防止の基礎知識 2) 標準予防策 (1) CDCガイドライン (2) スタンダードプリコーション 3) 感染経路別予防策		講義
2回 3回	2. 感染予防の技術の実際	1) 針刺し事故防止 2) 中心静脈カテーテル等の関連感染対策		講義
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 統合 医療安全 看護の統合と実践②(医学書院)			
参考文献				

【医療安全】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習をすること
--------	------	---------	---------------------

授業科目	国際・災害看護(国際看護)		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	非常勤講師 看護師		講義時間	10
			テスト時間	試験別
学習目標	1. 国際看護における看護の役割を理解する 2. 看護職としての諸外国との協力のあり方を理解する 3. 国際社会における医療福祉の現状を理解する 4. 我が国における災害対策と災害救助活動を通して、国際協力の必要性を理解する			
回数	主題	学習内容及び方法		講義形態
1回	1. 看護における国際化	1. 看護の対象者の国際化 2. 求められる看護者の能力 ・看護職者に求められるグローバルな視点		講義
2回	2. 国際看護とは	1. 世界の健康問題の現状 ・人口 感染症 地球温暖化 2. 国際看護の概念・目的 ・国際看護学の定義 ・国際看護学に関連する基礎知識 3. グローバルヘルス ・インターナショナルヘルスから グローバルヘルスへ ・ミレニアム開発目標(MDGs) ・持続可能な開発目標(SDGs)		講義 グループワーク
3回	3. 国際看護の対象	1. 国際看護の枠組み ・国際協力のしくみ 2. 在日外国人への看護活動		講義
4回	4. 国際看護活動の現状	1. 国際機関と保健医療福祉の関わり 2. 国際看護活動の実際 3. 国際看護活動の課題		講義
	5. 国際救護と看護	1. 世界における災害と難民・国内避難民の現状 2. 国際救護の活動の基本理念 3. 特徴的な災害・紛争救護活動の概要 4. 国際援護における看護の展開		
5回	6. 異文化を考慮した看護	1. 事例における看護の展開 ・文化を考慮した看護の展開 ・国際救護における看護の展開		講義 グループワーク
評価方法	筆記試験			
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院			
参考文献				

授業科目	国際・災害看護(災害看護)	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	1
		時間数	30
講師名	看護師	講義時間	19
		テスト時間	1(45分)
学習目標	1. 災害の定義および災害医療の概要を理解する 2. 災害サイクルにおける保健医療ニーズや活動の場に応じた看護を理解する		
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態
1回	1. 災害の基礎知識	1. 災害の定義 2) 災害の種類と健康障害 2. 災害医療の特徴 4) 災害情報 3. 職種間・組織間連携 6) 災害看護と法律	講義
2回	2. 災害看護の基礎知識	1. 災害看護の定義 2. 災害看護の基礎知識 3. 災害看護の対象者災害看護の特徴と看護活動	講義
3回 4回	3. 災害各期の看護	1. 急性期・亜急性期の看護 1) 初動体制について 2) トリアージ 2. 慢性期・復興期・静穏期 3. 災害が健康や生活に与える影響	講義
5回 6回 7回 8回	4. 災害看護の実際	1. 災害時に必要な技術 1) トリアージ 2) 搬送 3) 応急処置 2. 我が国の災害対策の実際	演習
9回	5. 被災者特性に応じた災害看護	1. 子ども・妊産婦・高齢者・障害者・慢性疾患患者・在日外国人に対する災害看護 2. 災害とこころのケア 3. 災害看護の特徴と看護活動	講義
10回	まとめ/終講試験		
評価方法	筆記試験		
テキスト	系統看護学講座 災害看護学・国際看護学 看護の統合と実践③ 医学書院		
参考文献			

【国際・災害看護】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	テキストで事前学習、事後学習を行う 世界情勢に関心を持って講義に臨む
--------	------	---------	---------------------------------------

★この科目は実務経験のある教員による授業科目です

独立行政法人国立病院機構高崎総合医療センター附属高崎看護学校

授業科目	臨床看護技術演習		対象学年・時期	3年次・後期
			単位数	1
			時間数	30
講師名	看護師 ★		担当時間数	30
			テスト時間	課題評価
学習目標	1. 複合的な条件の事例を予測性・個別性をもってアセスメントし、実践できる能力を習得する 2. 卒業時の技術到達度をふまえて、自己の看護技術の達成状況と課題を明確にする			
回数	主題	学習内容及び方法	講義形態及び教室	
1回	1. 複数患者の看護	1) 複数患者を受け持つための情報収集・管理 2) 1日のスケジュールの立て方と業務時間の管理 (援助の優先順位の決定とタイムマネジメント)	講義	
2回 3回 4回 5回	2. 複合事例の症状のアセスメント	1) 臨床推論の展開 2) 優先度の決定	演習	
6回 7回 8回	3. アセスメントに基づく看護の実施・評価	1) 多重課題の危険性 2) 多重課題発生時の対処の原則 3) 複合した治療処置の必要な患者への援助	講義 演習	
9回 10回	4. 看護チームの一員としてのメンバーシップ行動	1) 指示と報告の基本 2) チームワークとリーダーシップ 3) 看護チームでの情報伝達・共有	講義 演習	
11～15回	5. 自己の看護技術の達成状況と課題	1) 卒業時の技術到達度をふまえて、技術演習を行い、自己の課題の明確化	演習	
評価方法	レポートおよび課題			
テキスト	系統看護学講座 統合 看護管理 看護の統合と実践①(医学書院) 系統看護学講座 専門 I 看護学概論 基礎看護学①(医学書院)			
参考文献	系統看護学講座 専門 I 基礎看護技術Ⅱ 基礎看護学③(医学書院) 根拠と事故防止からみた 基礎・臨床看護技術(医学書院) 看護の統合と実践①看護実践マネジメント/医療安全 メヂカルフレンド社			

【臨床看護技術演習】

自己学習時間	15時間	事前・事後学習	演習の準備、技術練習を行う
--------	------	---------	---------------

授業科目	統合実習	対象学年・時期	3年次・後期
		単位数	2
		時間数	90
実習目的	領域別看護の実習をふまえ、保健医療チームの一員として看護を総合的、継続的に実践できる能力を習得する		
	実習目標及び内容		
	<p>1) 看護チームの一員として、対象の状況や個別性をふまえた適切な方法で看護を提供するための方法を理解する</p> <p>(1) 個々の患者の健康問題を把握し優先順位を決定できる</p> <p>(2) 患者個々の状態に応じた援助計画の立案ができる</p> <p>(3) 複数受け持ち時の1日の行動計画を立案できる</p> <p>(4) 限られた時間の中で複数患者に必要な援助が実施できるように時間管理ができる</p> <p>(5) 対象に応じた看護技術を実施する</p> <p>(6) 適切な時期に報告・連絡・相談できる</p> <p>2) 看護チームにおけるリーダーシップ・メンバーシップの重要性と看護の継続性について理解する</p> <p>(1) 継続した看護を行うための連携の必要性について述べられる</p> <p>(2) 夜間の患者の療養生活に必要な看護師の役割について述べられる</p> <p>(3) 夜間帯の安全管理について述べられる</p> <p>(4) 病棟の看護体制と運営方法について述べられる</p> <p>(5) 看護師の労働環境を整える体制について述べられる</p> <p>(6) 医療事故防止のための体制について述べられる</p> <p>(7) 防災対策について述べられる</p> <p>(8) 看護チーム内のリーダーの役割について述べられる</p> <p>(9) 看護チーム内のメンバーの役割について述べられる</p> <p>3) 自己の看護に対する考えを探求する</p> <p>(1) 専門職業人としての自己の課題を明確にすることができる</p> <p>(2) 自分の役割を自覚し、責任のある行動ができる</p> <p>(3) よりよい看護を実践するために、主体的に学習する姿勢がある</p> <p>(4) チームの一員として適切な人間関係をもつことができる</p>		
評価方法	評価表による評価		